



KAWA TO HITO Magazine Vol.44

# 川と人

VOI.44



## CONTENTS

- 特集 ..... 03  
千歳川遊水地群が供用開始
- 千歳川流域 6 首長インタビュー ..... 06  
(座談会風まとめ)
- 石狩川の歴史 ..... 12  
千歳川の治水あれこれ
- 流域の現在 ..... 16
  - ・千歳市 時と人をつなぐ文化都市
  - ・恵庭市 花と水と緑 生命のドラマ
  - ・北広島市 妖精と出会い、大志を育む
  - ・江別市 江別らしい産業景観と多様な力の活用
  - ・南幌町 地域資源の活用と治水への祈り
  - ・長沼町 隣の農村の絵になるコンテンツ

- 世界川紀行.....22  
ベトナムの川と日本人との関わり  
帯広開発建設部 治水課長 工藤 拓也氏
- 河川トピックス.....26  
・「北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」  
の中間取りまとめ  
・北海道の3事業が「全建賞」を受賞
- 令和元年度河川・海岸協力団体の取り組み.....28
- 石狩川振興財団の活動報告.....30
  - ・流域環境保全活動
  - ・河川教育活動
  - ・NPO・市民団体等への支援・助成
  - ・令和元年度市町村河川情報委員 情報交換会議
  - ・石狩川流域圏会議

## ご挨拶



一般財団法人 石狩川振興財団 理事長  
原 俊哉

石狩川振興財団は、北海道の河川とその周辺地域との結びつきを深め、河川流域の健全な発展に寄与することを目的として、平成4年に設立されました。(当初は公益法人、平成23年に一般財団法人に移行)

この目的を達成するため、設立以来、様々な活動を行っています。その主なものは、川と地域に関する情報の整備・提供、河川関連事業の支援、川を活かした地域振興計画の立案、流域市町村やNPO等と連携した流域環境保全活動や河川教育活動、などです。さらに、平成23年度からは、石狩川流域の全46市町村長で構成される「石狩川流域圏会議」と連携して、流域圏全体の活性化を目指した取組みを進めています。

冒頭、当財団の目的として「河川とその周辺地域との結びつきを深め」と書きましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、これに影響する事態が続いています。流域市町村やNPO等と連携した様々な活動が延期や中止となり、地域や河川管理者等とのコミュニケーションを大切にしてきた当財団としても、様々な方向性を模索しています。「テレワーク」や「オンライン会議」などは世の中を大きく変えていくでしょうし、距離的なハンディを抱える北海道にとっては有用と考えられます。その一方で、当財団が推進している川の魅力を活かした新たなツーリズム「かわたび北海道」は、川の自然環境や景観に直接触れて、人や地域と交流してはじめて感動や元気が生まれます。また、石狩川流域圏会議との連携による「豪雨災害対策職員研修」(各市町村職員が対象)は、防災の知識や技術を習得することに加えて、いざという時に助け合えるよう、参加した防災関係機関や市町村同士の交流を深めることを重視した取組みです。人と人との短い距離での結びつきの大切さもまた改めて感じています。

このような状況下においても、近年頻発する豪雨災害への対応として、社会資本整備審議会「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」(昨年11月設置)が、WEB会議を駆使して答申をとりまとめました。そこで打ち出されているのが「流域治水」という考え方であり、流域全体のあらゆる関係者が協働して治水対策に取り組むことの重要性が示されています。今回の「川と人」第44号では、千歳川遊水地群の供用開始について特集しています。幾度となく洪水被害に見舞われ、「流域治水」の先駆けとも言える取組みを進めてきた千歳川流域6市町の強い結びつきについて認識を新たにするところです。

今後とも、国、地域、関係機関等の結びつきの重要性を強く意識し、これまで当財団が築いてきた地域や河川管理者等とのコミュニケーションネットワークを大切に、さらに磨きをかけて、その役割を果たしてまいりますので、引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

令和2年8月

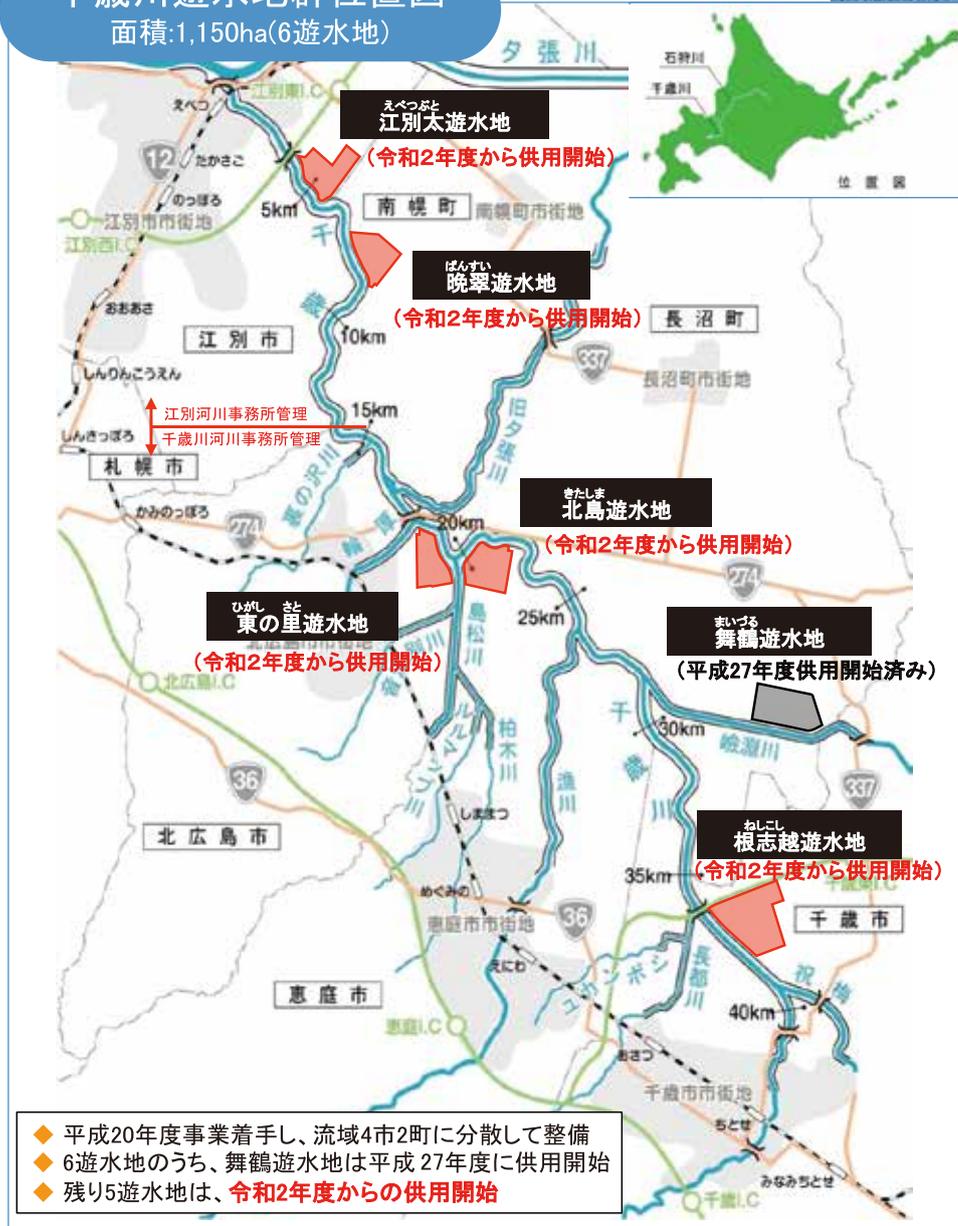
# 特集 千歳川遊水地群が供用開始

千歳川は中下流部に広大な低平地があり、ほぼ2年に1回の頻度で水害に見舞われてきた。

その流域4市2町が早期の治水整備を願う中、令和2年度から6箇所全ての遊水地で供用が開始された。これらの適切な管理と残る堤防強化・河道掘削の促進によって治水安全度の向上が期待されている。



## 千歳川遊水地群位置図 面積:1,150ha(6遊水地)



江別太遊水地 (江別市)



晩翠遊水地 (南幌町)



東の里遊水地 (北広島市)



根志越遊水地 (千歳市)



舞鶴遊水地 (長沼町)



北島遊水地 (恵庭市)

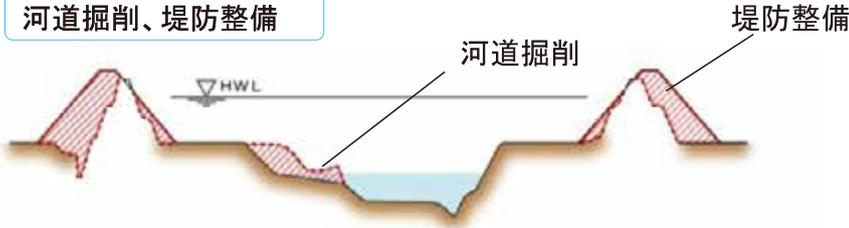


特集

千歳川流域の治水対策

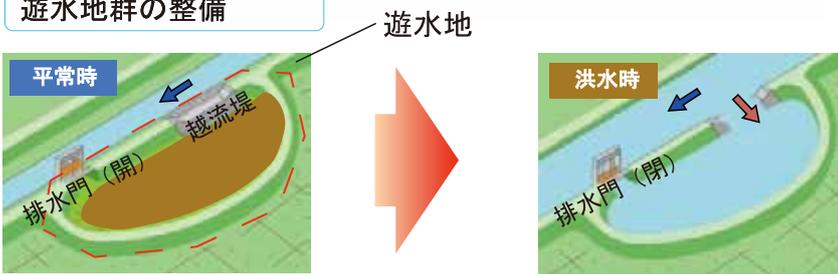
水害常襲地帯である千歳川流域の抜本的な治水対策として昭和57年に計画された千歳川放水路は、様々な関係者の理解が得られず、平成11年、北海道知事の意見を踏まえて中止することとなった。それに代わる治水対策として、遊水地によりできる限り水位を下げるとともに、石狩川本川の背水の影響を受けた高い水位に対応する堤防を整備する千歳川河川整備計画を平成17年に策定している。以降、本計画に基づき、千歳川の河川整備が進められてきた。(12P～15Pの「石狩川の歴史」を参照)

河道掘削、堤防整備



←石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した、石狩川本川と同様の堤防高・天端幅を有する堤防整備  
河道断面が不足している区間の河道掘削

遊水地群の整備



←洪水時の河川の水位上昇を抑えるため、洪水調節容量 約5千万m<sup>3</sup>の遊水地群を流域4市2町のそれぞれに分散して整備

軟弱地盤上の盛土等、困難を極めた遊水地整備

遊水地の整備は、現地調査、用地取得、近傍道路・水路等の移設、遊水地内の掘削、周囲堤の盛土、排水門・越流堤等の整備という流れで、平成20年度から令和元年度までの12年間で、約1,150億円を投じて、集中的に進められた。

千歳川流域固有の泥炭性の軟弱地盤上に高さ約6mにも及ぶ周囲堤を新たに建設するとともに、それに必要な膨大な盛土材料として粘性土等の遊水地内より発生した掘削土を土質改良して活用するなど、様々な技術を導入しつつ、また、試行錯誤を繰り返しながら進められた。



↑ 遊水地掘削



↑ 盛土材改良



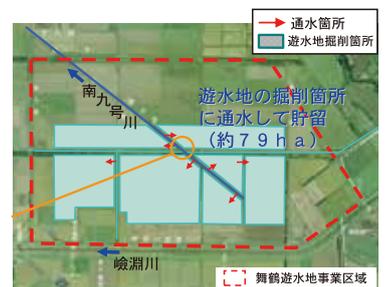
↑ 基盤処理

工事中においても内水被害を軽減

千歳川遊水地群は、内水氾濫に対応するべく、標高の低い河川沿いに各遊水地を配置するとともに、外水を貯めるまでの間、調整池としても機能させる計画となっている。この機能は、遊水地の工事中においても幾度となく発揮され、周辺の内水氾濫被害が軽減された。



2011/9/6 15時頃撮影



↑ 平成23年9月洪水時の状況

特集

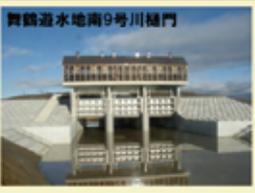
遊水地群を適切に管理

周囲堤、越流堤、排水門、樋門等の遊水地の機能を発揮させるための施設のほか、水位等の状況監視の施設、周辺の人々に知らせる警報施設等を備えている。これらを適切に管理し、洪水初期には内水を貯留し、さらに大きな洪水時には外水を貯め込むことで、千歳川流域内における洪水被害を軽減することが期待される。

遊水地の施設

主な施設： 周囲堤、越流堤、排水門・樋門等

**樋門**  
堤内側の水を遊水地内に引き入れる施設です。



**その他の管理施設**  
CCTVカメラ、水位計、警報装置(スピーカー・サイレン)は、遊水地の空間監視や構造物の監視、内外水位の把握、遊水地周辺の人々に洪水の越流や樋門の開閉を知らせるための施設です。

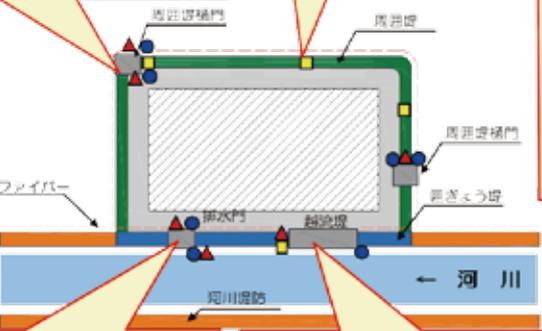


**排水門**  
遊水地に溜めた水を河川に安全に排水する施設です。



**越流堤**  
河川から遊水地に洪水を流し込む施設です。





千歳川河川事務所での操作状況

光ファイバー

河川堤防

河川

△ CCTV  
■ 警報装置  
● 水位計

残る堤防強化・河道掘削を促進

【堤防強化】

堤防強化は、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応すべく、軟弱地盤上において緩速盛土が段階的に実施されている。あわせて、樋門、橋梁等の構造物の改築も行っている。

堤防盛土前



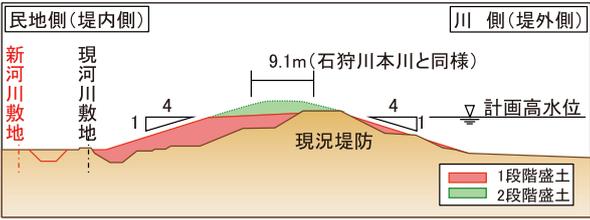
平成22年撮影



堤防盛土後



平成22年撮影  
島松太築堤 (KP22km付近)



民地側(堤内側) | 川側(堤外側)

新河川敷地 | 現河川敷地

9.1m(石狩川本川と同様)

1:4 | 1:4

▽ 計画高水位

現況堤防

1段階盛土 (赤)

2段階盛土 (緑)

【河道掘削】

河道掘削は、千歳川本川、漁川等を先行して完成させ、令和2年度現在においては、旧夕張川、島松川等の支川の掘削が実施されている。

河道掘削前



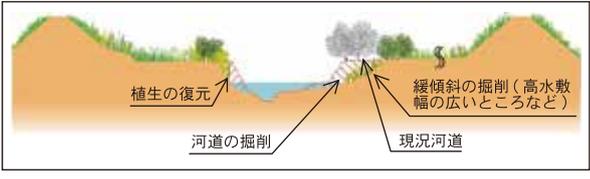
平成22年撮影



河道掘削後



平成22年撮影  
漁川(千歳川の合流点から3km付近)



植生の復元

緩傾斜の掘削(高水数幅の広いところなど)

河道の掘削

現況河道

※図表・画像等は国土交通省・北海道開発局の資料より引用



# 千歳川流域 6 首長インタビュー

(座談会風まとめ)



事前の書面インタビュー(令和2年6月実施)をもとに座談会風にとりまとめました。

※限られた紙面の中で、できる限り首長さん独自のお話をたくさん掲載するため、重複する部分や背景の説明部分等を割愛して編集しています。



## ◎千歳川治水への思い

千歳川流域 4 市 2 町における 6 遊水地のすべてが完成・供用開始となりましたが、このことを受けてご感想や千歳川の治水への思いをお聞かせ願います。首長さんご自身の洪水体験や普段の川との付き合い方等にも触れていただけるとありがたいですし、地元の反応も含めてお話し下さい。千歳川流域治水対策協議会等の会長である恵庭市長さんから、順にお願いします。

Q1

恵庭市長



《原田 裕 恵庭市長》

広大な低平地が広がる千歳川の治水対策は、開拓当初からの課題であり、現在まで様々な治水対策が講じられてきましたが、石狩川本川の水位の影響を大きく受ける特性等から、従来の河川整備では、外水・内水氾濫の抜本的対策とならない現状がありました。私自身、総務課職員として、本市に多大な被害をもたらした昭和 56 年の大洪水を経験しており、その悲惨な状況を見えています。その後、抜本的な対策として期待された「千歳川放水路計画」は、紆余曲折を経て中止となり、平成 17 年に新たな計画が策定され、現在、その計画に基づく事業が進められています。今年度、6 箇所全部の遊水地が供用を開始したことにより、これまで以上の治水効果が発揮されると大いに期待しております。

一方で、河川の間近で営農を続ける地元民の立場からすると、近年、頻繁に発生している局地的な集中豪雨に対応する観点からも、堤防整備や河道掘削など、残されている事業の一日も早い完成が待たれるところであろうと思います。

北広島市長



《上野 正三 北広島市長》

地域の治水安全度を向上していただき感謝申し上げます。昭和 56 年 8 月の災害を思い出しますと、ブヨブヨの千歳川築堤、徹夜での土のう積み、島松川築堤が破堤し一面湖のようになった農地、その上をカモメが飛んでいました。今でも雨が強く降ると当時のことを思い出します。

この度の供用開始は、洪水時の千歳川の外水だけでなく内水の氾濫を防ぐことにもなり、また短期間で整備が完成したことに地域住民は喜んでいますが、農業収益力の向上に繋がるとの声も聞こえています。

## 江別市長



《三好 昇 江別市長》

当市は石狩川、夕張川、千歳川の合流点に位置し、札幌のベッドタウン、4大学が所在する文教都市、小麦とブロッコリーに象徴される都市型農業のまち、レンガのまちとして発展してきましたが、過去に何度も水害を受けたこともあり、千歳川の治水対策は市民の悲願でした。6遊水地群の竣工は、市民への大きな安全、安心をいただいたものと思っています。残る河道掘削、堤防整備を予定通り進めていただくようお願いいたします。

また、多品種の野菜等の生産が盛んな都市型農業のまちであることから、遊水地整備と国営かんがい排水事業「江別南幌地区」との連携による内水対策効果により、農作物の高品質化、生産拡大にも期待しています。

## 南幌町長



《三好 富士夫 南幌町長》

夕張川の切替事業など先人の弛まぬ努力が受け継がれ、この度の遊水地群完成で治水対策が前進したことに喜びを感じるとともに、事業に携わっていただいた関係各位に心より感謝を申し上げます。自宅が千歳川のすぐ近くにあり、昭和56年の大洪水時には土のう積みの作業をしましたし、千歳川の水位が堤防天端に迫り、堤防が動いて、いつ破堤してもおかしくない状態だったことを覚えています。本町の掲げる「安心づくりのまち」への前進に、地元も喜んでいきます。

## 長沼町長



《戸川 雅光 長沼町長》

昭和50、56年大水害の防災を担当、千歳川放水路事業促進総決起大会(1万人集会)などの担当であった者として、正に感無量であります。関係各位のご尽力に深く感謝を申し上げます。

本町の舞鶴遊水地は既に供用開始しており、平成30年7月の大雨時には嶮淵川の洪水が越流し、水位上昇を抑制する効果が実証されています。全遊水地完成により、流域の治水安全度が大きく向上するものと期待しております。地元期成会としても、歴史に残る大きな一歩として大変喜んでいきます。

## 千歳市長



《山口 幸太郎 千歳市長》

千歳川の増水を抑制することが期待でき、地域農業への影響や、市民の安心・安全な環境を守る観点などから、大変喜ばしいことと考えています。地元の千歳市治水対策促進期成会においても、昭和56年の災害において、耕作地などが大きな被害を受けたことを契機に、「千歳市内にある各河川の治水事業の促進」や「関係流域の内水排除対策の促進」に係る要望活動等に取り組み、その中で、「根志越遊水地」と「堤防整備」工事の一日も早い完成を望んでいたことから、大変喜んでいきます。

## ◎千歳川遊水地群整備について

中止となった「千歳川放水路計画」に触れるお話もありましたが、遊水地群整備と堤防強化、河道掘削を組み合わせた現在の治水対策について、現在、どのようにとらえておられますか。

Q2

## 南幌町長

遊水地により、洪水時の水位は計画高水位以下になりますが、高い水位が長時間続くことにより、破堤時の被害は甚大なものとなります。また、流域は低地帯で洪水発生から長時間にわたり影響を受けやすい状況にあり、産業に及ぼす影響が懸念されます。洪水被害の軽減に加えて、被災後の早期回復に向けた対策の検討も必要と考えます。

恵庭市長

現在の計画は、治水対策としての緊急性や効果の早期発現を目指す事業であり、遊水地群の他に堤防強化や掘削等の要素がすべて揃って効果が発現できると思いますので、すべての事業の早期完成が必要であると考えています。千歳川の抜本的な治水対策としては放水路が望ましいと今でも考えていますが、環境への影響、漁業への影響など、千歳川の洪水被害に直接影響がない多方面の方々との利害調整の困難さがあることから、実現は難しかったものと思われま。まずは、現計画の早期完成を願っています。

長沼町長

現在の計画は、千歳川放水路計画を除けば、当時考えられる最大限の計画であると思います。昭和56年の災害時には堤防の決壊や計画高水位を超え内水排除も停止しましたが、今後、堤防が強化され計画高水位以下であれば内水排除を止めることなく冠水を最小限に抑えられます。しかしながら、地球温暖化により雨量や洪水量、洪水発生頻度の増大が予測されており、将来的には千歳川放水路が再度検討されることがあるのではないかと思います。

(※重複するお答えは割愛させていただきました)

◎今後の千歳川治水への期待

今後の千歳川における治水への期待や要望についてお聞かせ下さい。今度は、最上流の千歳市長さんから順にお願いします。

Q3

千歳市長

千歳市域内においては、河川整備計画の治水対策のうち、「河道の掘削」、「遊水地群整備」が完了しています。先に完成した長沼町さんの舞鶴遊水地の状況を見ても、周辺地域にとつて大きな整備効果があると期待しているところです。  
残る「堤防整備」も促進していただきたいと思ひます。

長沼町長

治水対策の進展により、企業の進出や移住、定住が都市周辺のみならず、農村部にも広がりつつあります。また、農業地帯も水害の心配がなくなり、大規模な農地整備事業にも取組み、ICTを活用したスマート農業や、ブロッコリーや長ねぎ、トマト、アスパラガス、花など高収益作物の栽培も進み、若い農業後継者や新規就農者が毎年育っています。

次世代を担う若者たちのためにも、残っている堤防強化や支流の整備などの推進をよろしくお願ひします。



▲町民と触れあう戸川 長沼町長(こどもフェスタ)

南幌町長

近年の集中豪雨を考えた時、防災・減災のための新たな治水対策も必要です。ハード対策のみならず、ソフト対策も取組む必要があると思ひます。

また、今回供用が開始された遊水地を含め、これまで整備された河川管理施設が将来にわたり機能が発揮されるよう、維持管理体制を継続的に保っていく必要があると思ひます。



▲町民と触れあう三好 南幌町長(パークゴルフ)

江別市長

今後予定している治水事業により、治水安全度が格段に向上し、流域住民の生命、財産が守られ、併せて、農地の浸水被害の低減により、高収益作物の栽培が可能となり農業収益力（営農の安定化）が向上するものと考えます。  
また、石狩川下流域に位置していますので、石狩川を含む河道掘削、堤防整備の推進などにより、さらなる治水安全度の向上が図られるようお願いします。

北広島市長

輪厚川、音江別川、島松川などの支川の早期整備、特に輪厚川については本市の人口密集地域を流れる河川であり、治水施設としてだけでなく、親水施設、憩いの場としても周辺住民が注目しているところですので、工事の早期完成をよろしく願いいたします。



市民と触れあう上野 北広島市長（緑の羽根街頭募金活動）▶

恵庭市長

S56 災害を想定した現在の計画の早期完成を期待しています。一方、平成26年9月の集中豪雨により漁川において甚大な災害が発生したことなど、降雨域の違いにより市街地や下流域において大きな洪水被害が発生する可能性が感じられたことから、S56 災害のメカニズムとは異なる洪水モデルや必要な対応策を検討していただきたいと思ひます。

◎遊水地等の有効活用

完成した遊水地の普段の有効活用を含め、河川空間の活用や河川に関する様々な取組みについて、既存のものでも今後の方向性でも結構ですのでお聞かせ下さい。  
既に「タンチョウも住めるまちづくり」を進めておられる長沼町長さんからお願いします。

Q4

長沼町長

工事中の舞鶴遊水地にタンチョウが飛来したことをきっかけに、タンチョウが安心して住める環境づくりと、タンチョウをシンボルとした町の産業振興の両立を目指す「タンチョウも住めるまちづくり」に取り組んでいます。本年5月には、人工湿地環境では初とされるタンチョウの繁殖が舞鶴遊水地で確認され無事ヒナも誕生、町内小学生等を対象とした環境学習等にも活用しています。今後は、他の遊水地も含めた流域ネットワーク形成も視野に入れていく必要があると思ひます。

また、当町観光協会が試験的に千歳川でのカヌー体験を行ったり、近隣の4町（栗山町、南幌町、由仁町、長沼町）で「そらちゲートエリアバイクウェイ」と称したサイクルツーリズムも推進しています。

今後、舞鶴遊水地周囲堤、道の駅マオイの丘公園、馬追丘陵遊歩道等を周回コースとした、グルメとランニングを組合わせたイベント（マラニック）等も検討していきたいと考えています。

北広島市長

平成30年3月に「北広島市東の里遊水地利活用計画」を策定し、これに基づき市民の交流や活動の場として有効活用を図ることとしています。今年度、そのための施設整備に向けて実施設計を行う予定ですし、今冬から、遊水地内の一部を新たに雪堆積場として活用する予定です。

また、本市にはエルフィンロード（道道札幌恵庭自転車線）という広域自転車道がありますが、今後整備予定の遊水地の利活用施設や防災センターエリアとつなぐ周回ルートを設定して、防災、環境、スポーツコミュニティ等、まちづくりに活かしていきたいと考えています。

江別市長

遊水地の活用については、舞鶴遊水地のように、流域自治体ごとの地域特性、実情等を考慮しながら進めることになると思いますが、共通する方向性、課題などがあれば水系協などを通じ流域として取組んでいきたいと考えています。当市では、まず修景用採草畑としての利用を予定していますが、サイクルツーリズムほかの利用についても内容が定まれば、ご相談させていただきます。



▲市民と触れあう三好 江別市長（やきもの市）

そのほか、江別河川防災ステーションを起点に調査船「弁天丸」を活用した自然環境観察や川・まちの歴史を学ぶ学習支援活動、生物採集や川流れ体験を通して川に住む生き物・水の大切さ・自然の楽しみ方を学ぶ「水辺の自然塾」、石狩川流域 300 万本植樹等、石狩川や千歳川を通じて様々な取組を進めています。

南幌町長

流域 6 遊水地が連携した取組として、堤防をサイクリングロードとする構想が以前から出されています。ただ、支川との合流点等は堤防が繋がっていないために迂回しなければならなかったり、すべての堤防整備にはまだ時間が必要なうえに舗装化も必要など、もう少し時間がかかるように思います。本町の晩翠遊水地は、付近に温泉等がありますので、観光資源としての活用もできたらと考えています。

恵庭市長

「恵庭かわまちづくり」が平成 29 年度に登録され、「道と川の駅」周辺において、国と恵庭市による「かわゾーン整備」、恵庭市による「花の拠点ゾーン整備」、民間事業者による「住宅団地ゾーン整備」が、令和 5 年度の完成を目指して進められています。



▲市民と触れあう原田 恵庭市長（サケ稚魚放流式）

また、子どもの環境教育として、恵庭河川愛護会・えにわ市民サケの会それぞれの主催で、恵庭市内の小・中学生により、漁川などでヤマメやサケの稚魚の放流が、毎年行われています。

遊水地の利活用については、4 市 2 町それぞれの個性や立地条件等、実情に合ったものになるとは思います。共通する課題については流域として取組む必要があると考えています。

千歳市長

平成 24 年に市民等の意見を踏まえて「根志越地区遊水地利活用基本構想」を作成し、遊水地内をそれぞれ「自然と触れ合う」、「市民が利用し憩う」、「地域農業に活用する」ゾーンに分けて利活用を進めることとしており、今後、具体の利活用団体を募集していく予定です。



▲市民と触れあう山口 千歳市長（歩こう会）

また、千歳川沿いの道の駅「サーモンパーク千歳」、千歳川の水中観察窓を備えた「サケのふるさと千歳水族館」、リバーシティプロジェクトをはじめとする各種のイベント開催、千歳川沿いに桜を植栽する「千歳川桜プロジェクト」等、河川と連携した様々な取組を進めています。

さらに、連続した遊歩道等を水辺に創出する河川環境整備の要望や、「かわまちづくり支援制度」活用の検討も行っています。個人的にもウォーキングが趣味で、歩くことをもっと広めたいと考えています。

◎これからの流域連携

水害常襲地帯である低平地を共通して抱える流域 4 市 2 町は、治水対策の推進を柱に強く連携してきた歴史を持っていると認識しています。現状をどのように思われ、また、今後どうあるべきとお考えでしょうか。再び、恵庭市長さんからお願いします。

Q5

恵庭市長

それぞれ発展の歴史は異なりますが、水系を共にする4市2町は、これまでも川の恵みを楽しるとともに、洪水被害のない安心で安全な地域づくりを共通の課題として、官民連携して治水対策の促進に取り組んできました。それらは、水系協・連合期成会・流域治水対策協議会等の様々な組織において、多くの取組成果として残されてきていると思います。恵庭市としては、関係機関・団体の協力を得て、各協議会等の事務局を務めてきましたが、今後もその役割を担って各種業務を進めていくとともに、これまでもまして、治水対策の推進を柱に、様々な交流の促進、相互連携を強化していきたいと考えています。

千歳市長

自治体をまたぐ被災を想定した場合の広域避難の必要性、受入れ等の計画についても、石狩川下流域外減災対策協議会などにおいて、検討していく必要があると思います。

長沼町長

防災はもとより、住民生活に必要な上水道の整備やごみ処理事業にも連携して取組み、2023年開業予定の北海道ポールパークも連携を進めていますし、さらに道央圏連絡道路を始め、道路交通網の整備により観光振興にも連携が深まればと思っています。

また、先ほどお話したとおり、千歳川遊水地群は、湿地環境が再生され、タンチョウの生息適地となることが期待されることから、タンチョウの生息地分散の観点、また環境保全の観点からも、今後、流域全体の生態系ネットワーク形成を検討できれば幸いですと考えています。

南幌町長

人口減少、少子高齢化や住民ニーズの多様化等を踏まえ、ますます自治体間で強く連携していく必要があると考えています。

江別市長

石狩川、千歳川の下流域に位置しており、各河川上流部の降雨の影響を大きく受けることから、「内水対策を含めた各河川の総合的な治水事業の推進」なくして当市の治水対策は成り得ません。千歳川流域はもとより、石狩川、夕張川、空知川などの各河川上流域自治体との連携も重要であると考えています。

北広島市長

これまでも治水対策の取組など、緊密な連携を行ってきているところですが、まちづくり、地域振興を含めたさらなる広域連携が強化されればと考えています。

Q6

## ◎千歳川流域のさらなる発展に向けて

最後に、4市2町の首長さんのお話を受けて、札幌開発建設部長から一言お願いします。

札幌開発建設部長



鈴木 亘 札幌開発建設部長

千歳川における全6遊水地の供用開始にあたり、流域4市2町の皆様方におかれましては、治水対策に係るこれまでのご苦勞やご努力に心から敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

千歳川の治水対策が遅れてきた経緯や対策の難しさ等は皆様ご承知のことと存じますが、札幌開発建設部では、千歳川遊水地群の整備を重点事項として集中的に取り組んで参りました。平成20年度より進めてきた千歳川遊水地群の整備では、関係の自治体、期成会、大切な土地をご提供頂いた地権者の皆様など、多くの方々のご支援・ご協力のもと、このたび晴れて千歳川の全遊水地で供用開始する運びとなりました。ここに、あらためて関係者の皆様に感謝の意を表すと共にお礼を申し上げます。

今後も引き続き、適切に河川の維持管理を行うほか、残る堤防強化及び河道掘削等の促進に努めるとともに、流域の人々が安全安心に豊かに暮らせるよう、皆様と力を合わせていきたいと考えています。

最後に、千歳川流域の輝かしい未来と益々のご発展、そして皆様のご健勝を心からお祈り致します。

# 千歳川の治水あれこれ

石狩川の歴史

平成 17 年策定の千歳川河川整備計画に基づき、  
まずは6箇所(北広島市、南幌町、長沼町、千歳市、美々川、恵庭市)の遊水地群の整備が完了した。  
これを機に、これまでの千歳川の治水について振り返る。

## 道央地域にあって水害常襲地帯の千歳川流域

千歳川流域は、千歳市、恵庭市、北広島市、江別市、南幌町、長沼町の4市2町からなり、水田や畑作等の農業に加え、札幌の衛星都市として、新千歳空港等の優れた交通アクセスを活かした工業地域としてなど、道央地域の中核を担っている。

しかしながら、その地形、地質特性などに起因して、洪水氾濫が頻繁に繰り返され、ほぼ2年に1回の割合で水害に見舞われてきた。



## 昭和 56 年の洪水被害



↑長沼町の農業地帯



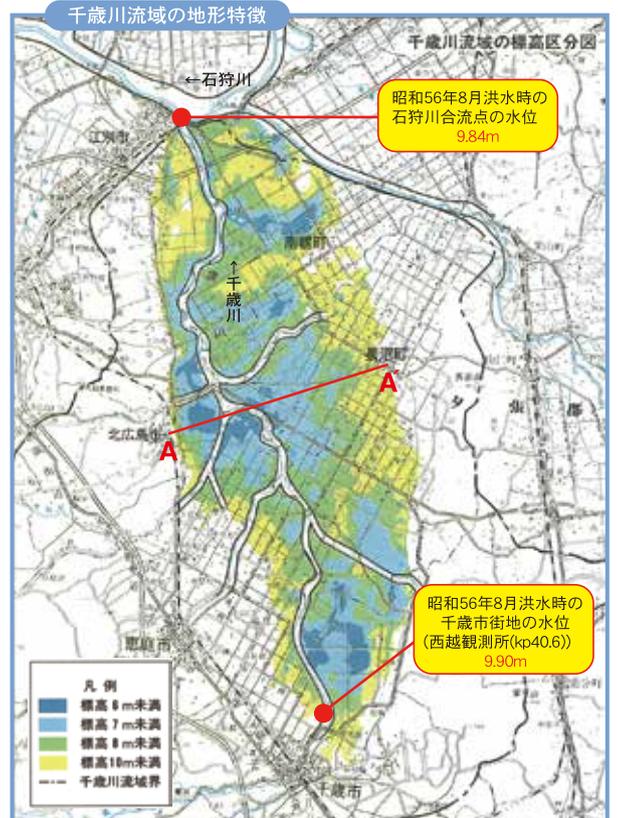
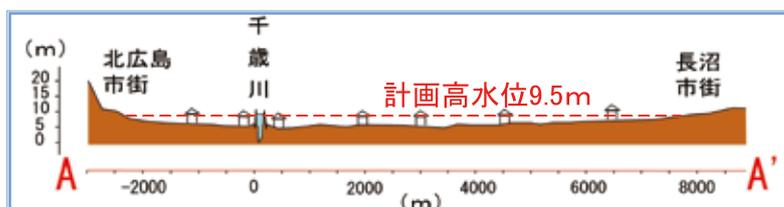
↑北広島市の市街地



↑江別市下の月付近

## 石狩川の高い水位の影響を長い区間に亘り、長時間受ける

- 千歳川には水害が起きやすい以下の原因がある。
- ・ 中下流部に広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を、日本の河川では他に例がないほど長い区間に亘り長時間受ける。
  - ・ 洪水時に高い水位が長時間続くと、火山灰や泥炭等の軟弱な地盤が多い地質特性から堤防決壊等の危険性が高い。
  - ・ 千歳川の水位が高いため、宅地や農地などに降った雨水は河川に流れ込むことができず、内水氾濫を引き起こしやすい。





## 古くから様々な治水対策を実施

千歳川では古くから、千歳川に合流していた夕張川の切替や、屈曲した河道のショートカット、堤防整備、漁川ダムの建設など、様々な治水対策が進められてきたが、その治水の困難性ゆえに、有効な対策が見出せずにいた。

### 【夕張川新水路事業】

大正11年～昭和11年に、千歳川に合流していた夕張川を直接石狩川に流す新水路を開削した事業。繰り返し水害に見舞われていた夕張川（現在の旧夕張川）左岸側の長沼町、右岸側の南幌町の住民にとって悲願の事業であり、今もこれに感謝するため毎年7月に、長沼町では水祭りが、南幌町では治水感謝式がそれぞれ行われている。



↑昭和11年8月夕張川新水路通水

### 【屈曲した河道のショートカット】

昭和7年から12年にかけて、千歳川の洪水を流れやすくしてその氾濫を防ぐため、現在の舞鶴橋直上流から南6号排水機場付近までの約5.2km区間における13カ所で屈曲部がショートカットされた。もっぱら、人力掘削、馬トロ運搬によって行われたとされており、これと合わせて舞鶴橋も架け替えられた。



↑竣工した舞鶴橋



↑舞鶴橋施工状況



↑屈曲部のショートカット



↑馬追運河排水機場

### 【排水機場整備】

中下流部に広大な低平地がある千歳川流域においては、堤防整備や堤内側の農地開発が進むにともない、内水氾濫への対応が大きな課題となっていた。その対策として、馬追運河、南6号、南9号排水機場が北海道初の建設省所管直轄排水機場として昭和43年に完成した。現在では、農業事業等によるものも含め、流域全体で約378m<sup>3</sup>/s（平成14年度末）もの排水機場が整備された。

### 【漁川ダム】

千歳川に合流する最大の支川・漁川の上流に、洪水調節、上水道、流水の正常な機能の維持を目的として、昭和55年に完成したロックフィルダムである。大雨特別警報が北海道で初めて発令された平成26年9月洪水においても、漁川の水位を約1.5m低減するなど大きな効果を発揮した。



↑漁川ダム



## 放水路計画から堤防強化 (遊水地併用) 案へ

### 【 抜本策としての千歳川放水路計画 】

昭和 56 年等の大洪水を契機に石狩川全体の治水計画が見直され、千歳川については、バック堤案、遊水地案、背割堤案等、様々な案の比較検討を行い、治水効果が格段に優れる千歳川放水路案が採用された。

放水路は、2箇所の水門の操作により、石狩川の高い水位の影響を遮断し、放水路を通じて直接太平洋に千歳川の洪水を安全に流すことで千歳川の水位上昇を抑え、内水の排除も容易にするものであった。



↑支笏火山等の噴火によりできた緩やかな丘陵地を通る約 40 kmの千歳川放水路

### 【 流域内外からの様々な意見により膠着状態に 】

被災地域の強い促進要望を受け、昭和 63 年に事業着手したが、海域への影響を懸念する太平洋側の漁業団体、ラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖や美々川への影響を懸念する自然保護団体等からの反対の声など、様々な意見が出され膠着状態となった。

北海道知事はその状態を打開するため、平成 9 年、「千歳川流域治水対策検討委員会」を設置、平成 11 年、当該委員会の提言を踏まえ、国に対して放水路に代わる治水対策を求める意見が提出された。国は、この知事意見を受けて、放水路事業を中止するとともに、それに代わる治水対策を検討するため、同年、北海道と共同で「千歳川流域治水対策全体計画検討委員会」を設置した。

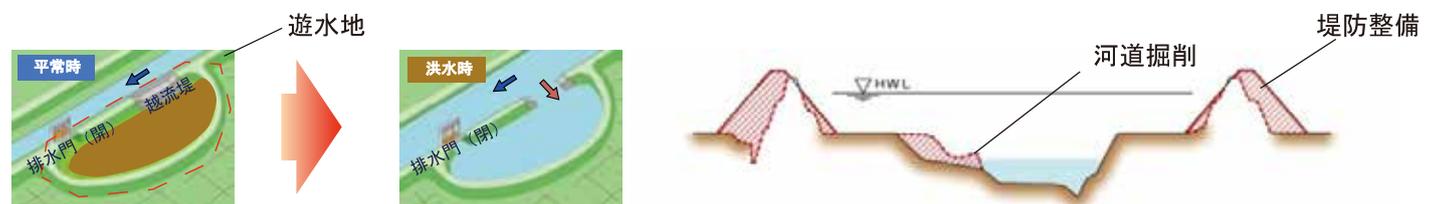
#### 放水路計画に係る主な動き

- S56 既往最大の洪水が発生
  - S57 千歳川放水路計画決定  
関係自治体、団体等に説明開始
  - S60 調査着手
  - S63 事業着手
  - H3 ウトナイ湖がラムサール条約登録湿地に
  - H4 出水により太平洋沿岸漁業被害
- （ 流域自治体は事業促進を要望、自然保護団体・漁業者等は反対 →事業が膠着状態に
- H9 知事が検討委員会設置
  - H11 検討委員会の提言を受け、知事が放水路に代わる対策を要望
  - H11 国が放水路計画中止を決定
  - H11 国・道が新たな検討委員会設置
  - H14 委員会が堤防強化（遊水地併用）案を提言
  - H16 石狩川水系河川整備基本方針策定
  - H17 千歳川河川整備計画策定

### 【放水路に代わる堤防強化（遊水地併用）案】

同委員会は、平成 14 年、治水効果に優れる流域外対策（※）が全体計画としては望ましいとの評価をしつつも、千歳川流域の治水対策の緊急性、実行可能性や早期の効果発現等を勘案し、遊水地によりできる限り水位を下げるるとともに、石狩川の背水の影響を受けた高い水位に耐える堤防を整備する「堤防強化（遊水地併用）案」を選択すべきとの提言を行った。これを踏まえて千歳川の計画が改定され、当該計画に基づき整備が進み、今般、全遊水地群の供用開始を迎えた。これを適切に管理するとともに、残る堤防強化・河道掘削を促進することとしている。（3P～5P の「特集」を参照）

（※）放水路計画及び当時比較検討されていた新遠浅川案（放水路の規模を縮小した案）を指す。



## 流域一体で取り組む防災、地域振興

## 【防災の取組】

古くから千歳川流域の4市2町が一体となって防災や治水整備促進の取組が進められている。

流域外に洪水を流す放水路事業を進めるにあたり、流域内でできる限りの努力が必要との考えから、平成6年に「千歳川流域洪水対策協議会」が組織された。当時、都市化が著しい流域への対策として進められていた「総合治水対策」を参考に、千歳川流域の流出抑制対策、土地利用規制等も盛り込んだ「当面の洪水対策」が策定、実施となった。平成14年にはそれを改組し、堤防強化(遊水地併用)案を前提に、内水対策、流域対策等の治水対策を協議、検討、調整する「千歳川流域治水対策協議会」が設置された。地元代表者、関係自治体、北海道、国で構成され、現在もその取組は継続している。先頃の社会資本整備審議会からの答申にある「流域治水」の考え方を先取りした取組であり、千歳川流域の治水に対する熱意を感じる。



↑千歳川流域治水対策協議会



↑地域防災訓練



↑内水排除訓練

## 【千歳川を活かして地域を元気に】

遊水地内は公共用地であり、平常時には、自然とふれあう場、地域住民が多目的に使用する場、地域農業に活用する場など、様々な有効活用が可能である。各市町において、関係機関、地域住民が協力して検討・調整が進められている。中でも、平成27年度に供用開始している舞鶴遊水地(長沼町)においては、タンチョウの飛来を契機に、その営巣環境を整備し、タンチョウも住める魅力あるまちづくりを実現するべく取組がされている。

第8期北海道総合開発計画を踏まえ、様々な主体が観光振興に取り組む中、北海道開発局の河川部門においても、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動等、河川空間が有するポテンシャルを活用した新たなツーリズムを「かわたび北海道」プロジェクトとして平成29年にスタートした。千歳川流域においても、魅力的な水辺空間の創出、水辺の利活用の促進等、地域が連携して様々な取組が進められている。



↑舞鶴遊水地のタンチョウ



↑CHITOSE RIVER CITY PROJECT



↑カヌーによる自然体験

また、千歳川流域のみならず、平成23年設立の石狩川流域圏会議(石狩川流域の全46市町村長で構成)とも連携して、石狩川流域圏全体の防災や活性化に向けた活動も展開されている。

千歳市

流域の現在  
①

時と人をつなぐ文化都市



ブルーインパルス展示飛行が見られる7月開催の千歳基地「航空祭」(画像提供:千歳市)



千歳川活用事例の一つ、清流千歳川噴水フェスティバル・清流千歳川あんどんまつり(画像提供:千歳市)

進化と文化の融合

本年度から民営化がスタートした新千歳空港。国内線ターミナルビルに温泉、国際線直結の高級ホテルなど魅力的な施設が次々と開業し、飛行機に乗らなくても楽しめる空港としても定着している。

千歳市は、北陽小学校が平成30年2月1日時点で児童数1,410人で学級数は40の全国一のマンモス校になるなど、道内において人口増加が著しい。これは「子育てするなら、千歳市」をキャッチフレーズに子育て層へきめ細かなサポートを展開した結果だ。

一方、世界文化遺産の登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」に「キウス周堤墓群」が入るなど、文化遺産も多く残る。明治21年、官営の千歳中央ふ化場(現さけますセンター千歳事業所)が建設され、日本の本格的なふ化放流事業の始まりとなった。また、明治29年にはサケマス増殖のため千歳川にインディアン水車が設置された。アイヌ民族も多く住み、伝承された芸能と工芸を無形文化財に指定し、年間を通して伝承保存活動が行われている。



新しいサケを迎える儀式アシリチェブノミでサケの捕獲が見られるのは千歳アイヌだけ(画像提供:千歳市)



搭乗までの間に「新千歳空港温泉」に浸かり仮眠やマッサージでフレッシュ(画像提供:千歳市)



キウス周堤墓群(縄文後期の集団墓8基)の第1号周堤墓(画像提供:千歳市)

産業の新たな取り組み

農業では、「千産千消」マップによるツアーやグリーン・ツーリズムを推進し、駒里地区はICT利活用によるスマート6次産業化農業モデル地区づくりを進めている。日本の未来を創造する活動も始まった。公立千歳科学技術大学など産学官金で光技術の頭脳拠点・ホトニクスバレーを形成し、新産業の創出と育成を進めている。

住民総出の労働奉仕で千歳飛行場を完成させた、協働のDNAは今もこの地に宿っている。



鶏卵生産量道内一の卵を使った千歳バーガー。お店によってさまざまなバーガーを提供(画像提供:千歳市)

Information

- 清流千歳川噴水フェスティバル・清流千歳川あんどんまつり(7月中旬): 千歳市清水町・東雲町 tel 0123-23-2175 (千歳市民夏まつり 実行委員会事務局)
- 国指定史跡キウス周堤墓群: 千歳市中央 tel 0123-24-4210(千歳市教育委員会埋蔵文化財センター)
- アシリチェブノミ(9月初旬): 千歳市蘭越 tel 0123-23-4969(蘭越生活館)
- 千歳バーガー: <https://burger.welcome-to-chitose.jp/>

恵庭市

流域の現在  
②



秋は漁川 恵庭大橋付近でサケが産卵 (画像提供: 恵庭市)

いのち  
花と水と緑 生命のドラマ



道と川の駅「花ロードえにわ」敷地内のウォーターガーデン (画像提供: 恵庭市)



サケのまちの豊かな水辺

オープンガーデンの時期には、観光客が恵み野地区などのガーデンを巡る独自の観光スタイルが確立されている花のまち恵庭市。市内を流れる千歳川支川 漁川の語源「イチャン」はアイヌ語で「サケの産卵場」などの意で、江戸時代に毎年3～4千石のサケマスが捕獲された記録が残るほど昔からサケが遡上した川だ。さらにカワヤツメの産卵場で、あかね橋付近は水辺の楽校という子ども達らの自然体験フィールドでもある。

上流には千歳川流域唯一の多目的ダム・漁川ダムがある。石などが主材料のロックフィルダムで、緑の中に澄んだ水を湛える。支川のラルマナイ川が創る恵庭渓谷は、三段の滝・ラルマナイの滝・白扇の滝がそれぞれの表情を見せる景勝地だ。

五感をフルに使う自然体験

「ルルマップ自然公園ふれらんど」は、千歳川水系ルルマップ川沿いに整備された。かつて使われた倉庫やサイロが地域の原風景をイメージさせ、キャンプやハスカップなどの収穫も楽しめる。平成30年、園内に北海道初上陸の「フォレストアドベンチャー・恵庭」がオープンし、話題に。樹間の吊り橋を渡るスリル満点の空中散歩は冒険心をくすぐり自衛力も身に付く。

また、アルパカや羊が放牧されているエコロジーテーマガーデン「えこりん村」は、平成19年から自然や生き物に親しみながら活動する「えこりん村学校」を開始し、平成26年には環境省の環境教育プログラムESDに選出され、小学校で活用できるプログラムとして紹介されている。恵庭が誇る水と緑の空間は、生命が躍動する生きた教材だ。



「えこりん村」銀河庭園は無農薬で地下水使用のエコガーデン (画像提供: 恵庭市)



新アクティビティ「フォレストアドベンチャー・恵庭」の空中散歩 (画像提供: 恵庭市)



特産品えびすかぼちゃを使った「恵みの庭のかぼちゃプリン」 (画像提供: 恵庭市)



大好評! 羊毛に付く保湿成分ラノリン入り「Ra-no ひつじの石鹸」 (画像提供: 恵庭市)



堤体面に芝を施した漁川ダムは流域の貴重な水がめ (画像提供: 恵庭市)

Information

- 道と川の駅「花ロードえにわ」(12月31日～1月2日休館): 恵庭市南島松817番地18 tel 0123-37-8787※恵みの庭のかぼちゃプリン、コスメ雑貨Ra-no等を販売
- エコロジーテーマガーデンえこりん村: 恵庭市牧場277-4 tel 0123-34-7800
- 漁川ダム: 恵庭市漁平 tel 0123-33-7107
- 恵庭渓谷: 恵庭市盤尻
- フォレストアドベンチャー・恵庭: 恵庭市西島松275番地(ルルマップ自然公園ふれらんど内) tel 090-4057-4560

北広島市

流域の現在  
③

妖精と出会い、大志を育む



なだらかな丘を駆ける爽快感。エルフィンロードではヘルシーイベントも開催 (画像提供：北広島市)



まちの歴史を刻んで流れる千歳川支川 島松川 (画像提供：北広島市)

■クラーク博士とエルフィンと

千歳川支川 島松川中流に国指定史跡・旧島松駅通所がある。明治 10 年、札幌農学校 (現北大) 初代教頭のクラーク博士が教え子に「少年よ、大志を抱け」と別れの言葉をここに残し、明治 17 年からは寒地稲作の祖・中山久蔵が経営にあたった。敷地

内にはクラーク博士記念碑と寒地稲作発祥の地碑が建ち、北海道の歴史的な出来事が北広島で起こったことを伝えている。

現在、特別天然記念物・野幌原始林に抱かれた自然豊かなまちの特徴を「妖精と出会えるまち＝エルフィン」と表現し、今やエルフィンは北広島の代名詞に。札幌市と結ばれるサイクリングロードをエルフィンロード・自転車歩行者専用道 (JR 北広島駅～上野幌駅、富ヶ岡地区) として整備し、「ツール・ド・キタヒロ」(6 月と 9 月) を開催し自転車による観光ルートを造成するとともに、スポーツサイクル用のスタンドを複数設置して自転車のまちとして認知を高めている。

■スポーツ・食・観光が結びつくまちへ

また、農作業や調理加工などが体験できる食と農のふれあいファーム「くるるの杜」では、農村レストランが休日には行列ができるほど人気で、農業と食が融合した地域モデルとなっている。

そして、動き出した大きなプロジェクトが北海道ボールパーク (プロ野球北海道日本ハムファイターズ新球場) だ。キャッチフレーズの一つに、スポーツが暮らしに根付いた次世代の街という大志も掲げられた。その舞台に北広島が選ばれたのはもはや宿命。これからはスポーツ・食・観光が結びつく高次都市機能の拠点を、市民と一丸となって創造していく。



消費者と生産者を結び食と農のふれあい広場「ホクレンくるるの杜」 (画像提供：北広島市)



「きたひろ農学校」シリーズ (全 5 種類) の、きたひろ春巻 (左) ときたひろコロッケ (右) (画像提供：北広島市)



明治 6 年、現国道 36 号の開通により設置された道内最古の旧島松駅通所 (画像提供：北広島市)



北海道ボールパーク F ビレッジ起工式。令和 5 年の開業を目指し 5 月から工事が始まった (画像提供：北広島市)

Information

- 旧島松駅通所 (4 月 28 日～11 月 3 日)：北広島市島松 1 番地 1 tel 011-373-0188
- ホクレンくるるの杜：北広島市大曲 377-1 tel 011-377-8700
- 北海道ボールパーク F ビレッジ：https://www.hkdballpark.com/
- きたひろ農学校シリーズ：三井アウトレットパーク札幌北広島 (北広島市大曲幸町 3-7-6)、ホクレンくるるの杜等で販売

江別市

流域の現在  
④

江別らしい産業景観と多様な力の活用



赤れんがづくりの工場跡、旧ヒダ工場。現在は、魅力的なお店が集う商業施設「EBRI(エブリ)」（画像提供：ストアプロジェクト 株式会社）

四季折々の美しさを見せる酪農学園大学にはレンガの歴史的建造物も保存されている（画像提供：酪農学園大学）

江別の原風景を残して

道路が発達していなかった時代、現在の新江別橋通りには江別港があり、江別地区は石狩川の舟運と鉄道が交わる交通の要衝として栄えた。今も残る倉庫と建物は、カフェや文化施設などに姿を変え往時をしのばせる。この利便性や環境から主要産業も生まれた。王子地区に道内最古の製紙工場（現王子エフテックス）が操業し、良質な粘土が採れる野幌地区は北海道遺産「江別のれんが」の生産の中心地となる。

酪農も江別で本格化した。アメリカ酪農法を導入した町村敬貴の農場にあった牛舎やサイロを移築した「旧町村農場」。現雪印メグミルク設立者の一人、黒澤西蔵が創立した「酪農学園大学」。江別を代表する2つの牧歌的風景は、先駆者たちの挑戦の証だ。

景観づくりと人づくり

江別市では、景観を守り育て市民共有の財産として次世代へ引き継ぐため、景観づくりに取り組んできた。市民推薦による都市景観賞の表彰や、江別らしいレンガやサイロなどの建物（バス待合所や電話ボックス）の建造費の一部補助を行いシンボル化した。

また、第6次江別市総合計画に掲げる「みんなで作る未来のまち えべつ」を実現するため、重点的・集中的に取り組むえべつ未来戦略において「ともにつくる協働のまちづくり」を共通の基盤に据え、進めていくこととしている。そのため、自治会、市民活動団体、大学などの得意分野や特性を活かし、互いに協力してまちづくりを進めており、それぞれの団体活動の充実に向け、人材育成などについて支援している。

平成30年、四季のみち横に「江別 蔦屋書店」がオープンし、早くも江別の顔として定着。ガラスとレンガのファサードが緑に映える、まちの未来を感じる知の景観だ。



当時の建物とサイロが並ぶ「旧町村農場」。アイスクリームも人気



千歳川に面する軟石倉庫の旧岡田倉庫（アートのスペース外輪船）



第19回江別市都市景観賞受賞の「江別 蔦屋書店」は食・知・暮らしを提案する大型複合書店（画像提供：江別市）



幻の小麦ハルユタカを使用したフルーティーな「ノースアイランドビール WEIZEN」（画像提供：SOCブルーイング 株式会社）



市内スーパー等で購入できるハルユタカブレンド「北海道江別小麦 ラーメン」（画像提供：株式会社 菊水）

Information

- EBRI(エブリ)(年末年始休業)：江別市東野幌町3-3 tel 011-398-9570
- 旧町村農場(4月29日～11月23日)：江別市いずみ野25番地の1 tel 011-383-7734
- 江別 蔦屋書店：江別市牧場町14番地の1 tel 011-375-6688
- ノースアイランドビール(江別工場)：江別市元町11-5 ※オンラインショップ <https://beer.ocnk.net/>

南幌町

流域の現在  
⑤

地域資源の活用と治水への祈り



毎月行うフットパスは、夏は幌向運河で川下り、冬はかんじきという多彩さ (画像提供：南幌町)



「なんぼろ温泉ハート&ハート」に導入されたペレットボイラーの燃料は稲わら (画像提供：南幌町)

フットパスと稲わらペレット

町内を貫くように整備された幌向運河は明治 29 年に開通し、泥炭地の排水と物資輸送を担った。途中で幌向運河第 3 閘門跡があり、水位の異なる所で船を上下させる閘門方式を採用入れた土木技術の高い施設でもあった。運河の発着場付近には登録有形文化財「旧幌向駅通所」がある。明治 45 年に開所し年間 550 人が利用するなど地方の交通を支えた。

南幌町には、これらまちに残る貴重な文化遺産や産業等を活かした取り組みがある。地域資源をつなぐ役割を果たすのは、NPO 法人ふらっと南幌がいち早く推進したフットパスだ。しらかんば樹液採取に防風林で野鳥観察、野菜直売所巡りなど、月毎に違うプログラムを組み南幌町の様々な魅力を発信している。

また、平成 17 年からはバイオマスエネルギーの研究を始めた。平成 23 年、農業廃棄物だった稲刈り後の稲わらを燃料とした世界でも先進の稲わらペレットの実用化に成功。現在、役場や小学校等にペレットストーブを、温泉にペレットボイラーを導入するなど地域循環システムを構築している。



三重緑地公園にある治水感謝の碑前で毎年行われる治水感謝式 (画像提供：南幌町)

洪水との戦いから湿原の保全・再生へ

夕張川を千歳川から石狩川へ直接合流させる夕張川新水路の完成(昭和 11 年)まで、夕張川(旧夕張川)の氾濫に苦しめられた歴史を持つ南幌町。毎年 7 月 1 日を治水感謝の日と定め、事業を発案・指揮した保原元二ら恩人に今も感謝を続けている。現在、その夕張川では国と地域が協働で、かつて広がっていた幌向湿原を保全・再生する石狩川下流幌向地区自然再生に取り組んでいる。

歴史を語り活かしながら、明日に向け歩を進めていく。



石狩川下流幌向自然再生地区で行われた湿地が題材の「しめっち落語」 (画像提供：南幌町)



ボリューム満点! 特産のキャベツを使ったキャベツ天井 (画像提供：南幌町)



ふるさと納税のお礼の品、南幌ソーイングの手作りマスク (画像提供：南幌町)

Information

- フットパス・NPO 法人ふらっと南幌：南幌町栄町 4 丁目 4-19 tel 090-3891-6675 (近藤)
- なんぼろ温泉ハート&ハート：南幌町南 9 線西 15 番地 tel 011-378-1126 ※キャベツ天井は「レストラン 味心」で提供
- 三重緑地公園：南幌町南 12 線西 3 番地

長沼町

流域の現在  
⑥

隣の農村の絵になるコンテンツ



夏は千歳川カヌー川下り体験が楽しめる(画像提供:長沼町)

長沼町の農業発展の基盤で現在は河川で白鳥飛来地でもある馬追運河(画像提供:長沼町)



見て・食べて・動いて・浸かる

東部に馬追丘陵を望み、裾野を染め分けて広がる田畑、馬追運河に羽を休める水鳥、舞鶴遊水地で子育てするタンチョウ、丘の上のカフェとワイナリー…。まるで絵葉書のような風景に、レンガづくりのモダンな道の駅「マオイの丘公園」や日本オートキャンプ協会から4つ星認定を受けた「マオイオートランド」などの施設を誇る。景色やレジャーを楽しんだ後は、道内屈指の湯量を誇る「ながぬま温泉」で汗を流すなど、まちをまるごと楽しむハードが整った長沼町。

その「ながぬま温泉」は冬の快適生活にも一役買っている。市街地の国道・道道・町道の一部に排湯を利用した融雪溝を整備し、冬もすっきりとした街並みを保っているのだ。



周辺にレジャー施設が広がる「ながぬま温泉」。町内ジンギスカン3種食べ比べも(画像提供:長沼町)

そんな豊かな田園文化を持つ長沼町は、旧夕張川を挟んで隣り合う南幌町と同様、昭和11年の夕張川新水路の完成まではその氾濫に悩まされ続けた。7月初めに開催される長沼神社のお祭りの「水祭り」では今も治水を祈る。当時の悲惨さがしのばれる全国でも稀な水の祭祀だ。



道の駅「マオイの丘公園」に長沼の美味しいが集結(画像提供:長沼町)

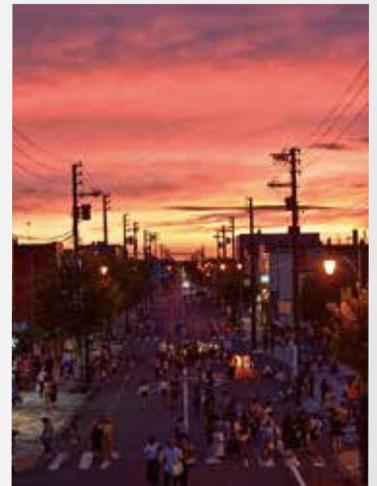


「マオイ自由の丘ワイナリー」は自家栽培の山ブドウを中心としたワインを製造(画像提供:長沼町)

故郷に帰ったような手作りの市

長沼観光の締めを飾るにふさわしい催しがある。長沼町では、5月から9月の第4土曜日に本通商店街を歩行者天国にして「夕やけ市」を開催している。商店等による工夫を凝らした露店やバザーに長沼百年太鼓や楽器演奏なども行われ、まちは縁日のような賑わいに包まれる。雪のない季節の月に一度のお楽しみに、近郊からも含め年間4万人が集うという。

そのアイデアと心意気! 交流のリーディングタウンにはハードとともに、人をつなぐ最高のハートがあった。



5月～9月第4土曜日開催の「夕やけ市」(画像提供:長沼町)※今年度中止

Information

- 長沼町発着千歳川カヌー川下り体験(8月): 長沼町観光協会 tel 0123-76-8019 ※今年度中止
- ながぬま温泉: 長沼町東6線北4番地 tel 0123-88-2408
- 道の駅マオイの丘公園(12月31日～1月3日休館): 長沼町東10線南7番地 tel 0123-84-2120
- マオイ自由の丘ワイナリー: 長沼町加賀団地 tel 0123-88-3704 ※直売ショップ土日祝日のみ営業

# ベトナムの川と日本人との関わり



日本橋こと来遠橋：ホイアン市提供

帯広開発建設部 治水課長  
工藤 拓也 氏

## 1. はじめに

筆者は2017年3月から2020年3月までの約3年間、在ベトナム日本国大使館で勤務した。赴任前ベトナムに対するイメージはベトナム戦争後間もない発展途上国だったが、実際にはサイゴン陥落が1975年、その後のカンボジア侵攻、中越戦争を経て、1992年から日本の対ベトナム援助が再開している。それから僅か30年程度しか経過していないのにも関わらず、今ではASEAN諸国の中でも地政学的、経済的に特に注目される国の1つとなっており、目覚ましい発展を遂げていることに大変驚いた。本稿では、ベトナムの概要やベトナムでの生活、川に関係したベトナムと日本人の関わりについて紹介したい。

## 2. ベトナム概要

ベトナムは東南アジアのインドシナ半島の東部に位置する、人口約9,620万人、平均年齢31歳、GDP成長率7%という若さと成長のエネルギーに満ちた

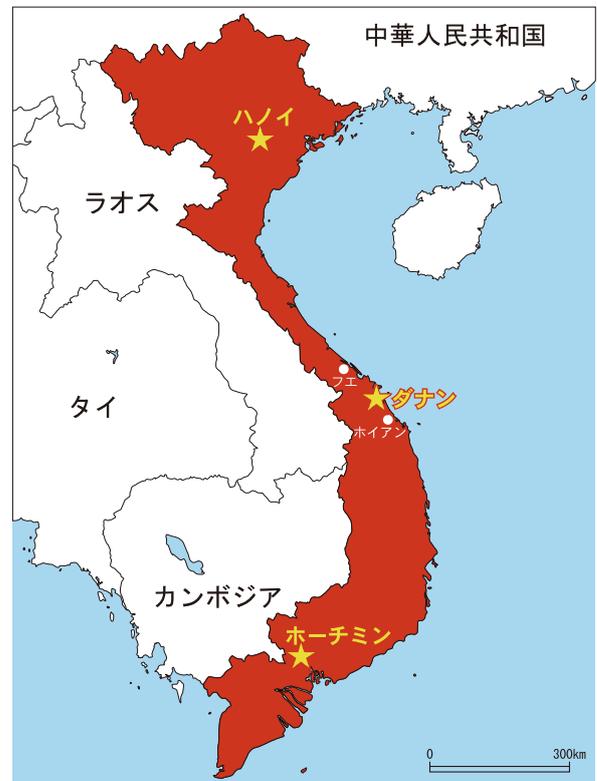


図-1 ベトナムの各都市の位置

国である。また、南北に長い国土面積は約33万km<sup>2</sup>であり、九州を抜いた日本とほぼ同じ面積となる(図-1)。北部に位置するハノイ市は政治・文化の中心、



図-2 ベトナム語の表記 (クオック・グー)

南部のホーチミン市は経済の中心とされている。ホーチミン市中心部は高層ビルが建ち並んでおり、現在日本の協力により都市鉄道1号線の建設が進められており、近く開業予定である。ハノイ、ホーチミンに次ぐ都市はベトナム中部のダナン市とされている。2017年にAPEC首脳会議が開催され、世界各国の閣僚が集まったほか、ビーチリゾートとしても世界的に有名になっている。

社会主義国ということで、中国との密接な関係を連想する読者も多いと思うが、上述の中越戦争だけでなく、歴史的には何度も軍事衝突が発生している。さらに、ベトナム共産党はトップ4と言われる党書記長、国家主席、首相、国会議長を中心とする17名の政治局員による集団指導体制をとっており、中国共産党とは類似点はあるものの相違点が多いと言われている。

東南アジアというと常夏の印象があるが、筆者が住んでいたハノイ市は、言うまでもなく夏は暑い、冬になると気温が一桁になることもある。湿度が高いため体感的にはさらに寒く感じる。

ベトナム語の文字は、周辺のラオス、ミャンマー、タイなどの表記文字と違い、一見アルファベットに見える(図-2)ので、当地で生活をしていれば少しは慣れてくるものの、発音はとても難しい。筆者と同様、ベトナム赴任を機にベトナム語を学習したものの、挫折した人は多いと思う。

東南アジア大陸部はインド文化の影響を受けているのに対し、ベトナムは長く中国の支配を受けていたため、漢字文化圏であった。17世紀以降、西洋のカトリック宣教師たちの活動やフランスによる支配によって、アルファベットに声調記号を付けたクオック・グーと呼ばれる文字の普及が広がり、1945年のベトナム民主共和国の独立に際し、当時の政府は国民の識字率の向上のためクオック・グーをベトナム語の公式な表記文字とした。元々漢字の表記から置き換えられたので、同じ漢字文化である日本語に似た発音もある。例えば、「注意」は chú ý (チューイー)、「改革」は cải cách (カイカック)となる。また、フランス支配の影響で「チョコレート」は sô cô la (ソココラ)、「コーヒー」は cà phê (カーフェ)と表記するなどフランス語から持ち込まれた言葉も多い。

### 3. ベトナムでの生活

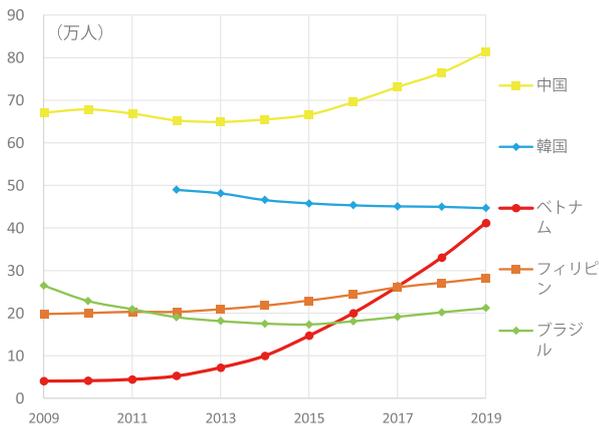


図-3 在留外国人(上位五カ国)の推移

### 4. 日本で活躍するベトナム人



図-4 ホン川に架かるニャタン橋



図-5 タイ湖周辺の様子

日本に在留するベトナム人は年々増えている。日本に在留している約300万人の外国人のうち、ベトナム人は約41万人であり、北海道には約8,000人が在留している（2019年6月、在留外国人統計法務省）。留学や技能実習、特定技能だけでなく、近年ではベトナムの大学で学んだ優秀な大学生・大学院生を正社員として雇用する企業も増えており、日本の少子高齢化による深刻な労働力不足に対して、ベトナムは最大の貢献国となることが期待されている。現在は国別で中国、韓国に次ぐ3位（図-3）だが、今後日本に在留するベトナム人は益々増加することが予想される。

こうしたベトナム人に名前を聞くと、グエン (Nguyen) さんが多い。コンビニなどで働くベトナム人の名札を見てそう感じた読者も多いと思う。ベトナムの姓は王朝の名からとられることが多く、ベトナム最後の王朝である阮 (グエン) 朝からとった姓が一番多いと言われており、ベトナム人の4割はグエンさんである。ちなみに日本の場合、鈴木さんと佐藤さんを合わせても日本の全人口の3%程度とのこと。

## 5. ベトナムの首都ハノイとホン川

ベトナムの首都ハノイ市はベトナム北部に位置する人口約800万人の大都市である。ハノイは漢字で「河内」と表記され、中国雲南省から発する流路延長約1,200km、流域面積約14万km<sup>2</sup>のホン川（紅河）の河口デルタに位置している。ベトナム北部の玄関口であるハノイのノイバイ国際空港と、その空港か

ら市内に向かう道路及び橋梁は日本の協力によって建設され、2015年に開通したが、その途中のホン川に架けられたニャットン橋は日越友好橋とも呼ばれている（図-4）。



図-6 ホアンキエム湖

ハノイ市内にはホン川の河跡湖と思われる湖が多くあり、こうした湖はベトナム人の生活、憩いの場となっている。中でも大きなタイ湖（西湖）では、釣りやボートを楽しむ人や、湖の近くでコーヒーやお茶を飲む人が多く見られる（図-5）。一方で、ベトナムの下水道普及率は全国平均で約15%、首都ハノイでも30%程度に留まっており、市内を流れる河川や湖は清潔とは言えない。日本のODAをはじめ様々な国や機関がハノイ市における処理場整備に協力しているが、現在日本の協力によりハノイ市最大の処理量となる下水処理場が建設中である。



図-7 寄贈された朱印船のレプリカ



ハノイを紹介する観光雑誌には必ず旧市街の中心にあるホアンキエム湖が紹介されている。この湖は、ハノイ市の人民委員会や国営デパートが面しており、休日には湖周辺における自動車やバイクの通行を禁止にしてイベントが開催されている。この場所には、15世紀に当時のレー・ロイ王がこの湖の宝剣で明(当時の中国)との戦争に勝利し、その後、金の亀の啓示を受け、宝剣を持ち主の竜王に剣を返したという伝説が残っている。この伝説からホアンキエム湖(還剣湖)と名付けられたとのこと。また、中心には亀の塔と呼ばれる建造物がある(図-6)。

## 6. ベトナム中部ホイアンと日本橋

ベトナムの王朝は主にハノイを都としたが、上述のグエン朝はベトナム中部のフエに都をおいた。ホイアンはフエから約120km南、流路延長約200km、流域面積約1万km<sup>2</sup>のトゥボン川河口に位置している。ホイアンは、フエの外港として機能し、16世紀以降ポルトガル、オランダ、中国、日本が来航する国際貿易港として栄えた。当時の日本は戦国時代から江戸時代初期であり、朱印船貿易が行われていた時代である。1639年の鎖国に至るまでの約30年の間に、延べ350隻を超える船が東南アジアを目指し、そのうちベトナム地域への渡航は約130回以上とされている。朱印船の出港は長崎に限られていたことから長崎県とホイアンの関係は深い。2017年には朱印船のレプリカがホイアン市に贈呈された(図-7)。

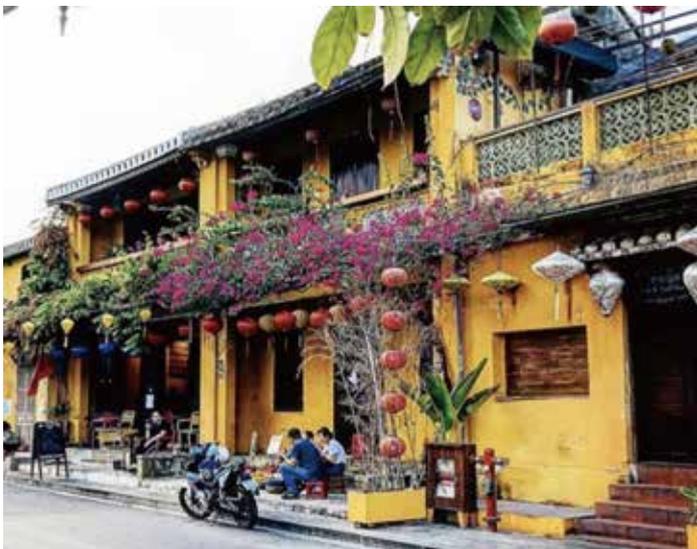


図-8 ホイアンの街並み

当時のホイアンには外国人街が形成されており、日本人町と中華街を結んでいたトゥボン川の支川に架かる来遠橋は当時の日本人が架けたとされ、日本橋とも言われている(表紙の写真)。18世紀に入ると、トゥボン川上流からの土砂による堆積によって次第に港が不便になったことから、当時は漁港に過ぎなかったダナンの港が発展し今に至る。その後、繰り返された戦争により、ベトナム都市部の多くは破壊されたが、戦火を逃れたホイアンは当時の町並みを残しており、日本橋を含めたホイアン市旧市街は、「ホイアンの古い町並み」として1999年に世界遺産に登録されている(図-8)。

## 7. おわりに

本稿では述べきれなかった南部のホーチミン市は東南アジア最長の国際河川であるメコン川に近接している。メコン川は流路延長約4,000km、流域面積80万km<sup>2</sup>、中国、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを通過し南シナ海に抜ける大河川である。

上流の中国で発電ダムを建設することによる下流への影響の懸念や、2018年に発生したラオスのダム決壊による影響など国際河川ならではの課題も多い。

また、報道によれば今年のメコン川は過去に例を見ない渇水に見舞われている。これまでも渇水傾向の年は塩害による被害が発生しており、河口デルタに位置するベンチェ省では日本の協力で塩水遡上対策として水門の整備予定である。気候変動による影響を大きく受ける国という点では日本と共通すると言えるだろう。

ここまで、ベトナムの概要や、川と日本人との関係などについて述べてきた。今後益々身近になるベトナムという国を知るきっかけになれば幸いである。

※本稿は全て筆者自身の見解に基づいており、組織等の意見を代表するものではない。本稿は、2020年6月に執筆したものである。



図-9 ベトナム農業農村開発省から表彰を受ける筆者

# 河川 TOPICS - ①

## 「北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」の中間取りまとめ

○平成 28 年 8 月の豪雨災害等を踏まえ、気候変動を考慮した治水計画に見直すべく様々な検討が進められてきている。標記検討会は、気候予測アンサンブルデータ(気候シミュレーションにより作成された数千年分の気候データ等)を活用し、北海道における気候変動を踏まえた当面の治水適応策に係る目標設定の考え方等に関する技術的な検討を行うべく、北海道開発局と北海道が昨年 7 月にスタートさせ、去る 5 月、これまでの議論を踏まえた中間取りまとめを公表した。

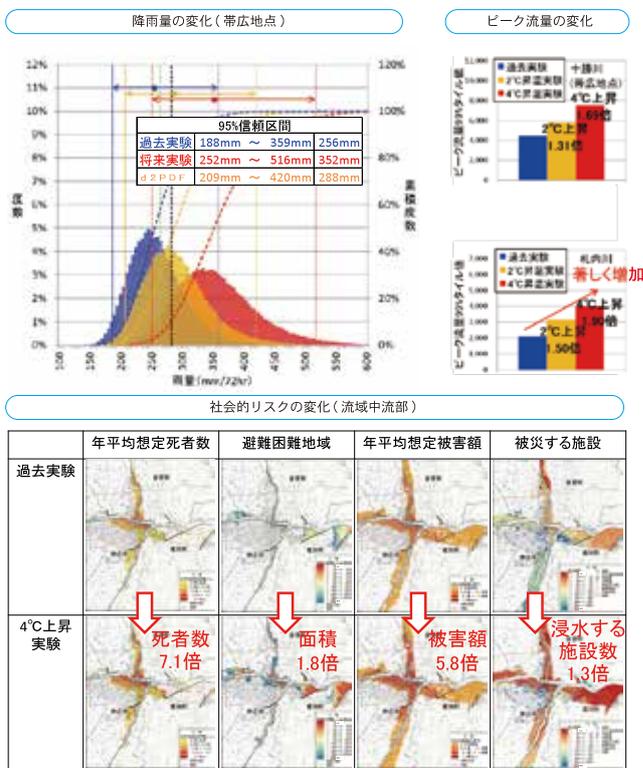
○平成 28 年洪水の際に大きな被害が発生した十勝川流域、常呂川流域を対象として検討されており、以下に十勝川流域での検討例を示す。

**【ハザードの変化】** 気温上昇(4℃上昇)により、降雨量は帯広地点で 1.4 倍、ピーク流量は本川、各支川で 1.5 ~ 1.9 倍に。

**【リスクの変化】** 気温上昇により浸水面積、浸水深、浸水確率のリスクが増大。年平均想定死者数は 7.1 倍、年平均想定被害額は 5.8 倍に増加(流域中流部、4℃上昇時)。多くの病院、役場等が浸水し、北海道において重要な農業についても、農地や農作物集積施設等の浸水リスクが増大し大きな影響が出る可能性。

**【当面の適応策】** 2℃上昇を前提に、帯広市・音更町等の流域中流部においては、河道内の貯留施設設置や既設ダムを活用、危機管理型ハード対策による堤防強化等、池田町・豊頃町等の流域下流部においては、堤防の緩傾斜化、掘削残土を活用した農地のかさ上げ等、さらに各エリアともに、避難行動を支援する築山、避難路の確保等が挙げられている。

○今後、十勝川・常呂川については、河川整備計画の変更等を通じて具体の社会実装を進め、さらに、今回公表のマニュアル等をもとに気候変動を踏まえた治水対策検討を全道の他河川に展開していくこととしている。



## 「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方」答申 ~「流域治水」への転換~

国土交通省が昨年 11 月に設置した社会資本整備審議会「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」による答申が、今般とりまとめられた。そこでは、近年頻発する水災害による甚大な被害等を踏まえ、治水計画を「過去の降雨実績に基づくもの」から「気候変動による降雨量の増加等を考慮したもの」に見直すとともに、これまで進めてきた『水防災意識社会』再構築の取組をさらに一歩進め、気候変動の影響や社会状況の変化等を踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で対応する『流域治水』へと転換すべきとしている。



## 河川 TOPICS - ②

### 北海道の3事業が「全建賞」を受賞

このたび、北海道の以下の3事業が、一般社団法人 全日本建設技術協会から令和元年度全建賞(河川部門)を受賞した。全建賞とは、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたもので、昭和28年(1953年)の創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々の国民ニーズに沿った幾多の取組に授賞がなされてきた。

#### ①「千歳川遊水地群の整備事業」 受賞機関：北海道開発局札幌開発建設部千歳川河川事務所、江別河川事務所

千歳川遊水地群は、千歳川流域の治水対策として平成20年度から事業着手し、様々な困難な課題を克服して、本年4月より流域6カ所の全ての遊水地の供用を開始した。(3P～5Pの「特集」を参照)

周囲堤の施工にあたって、北海道の開拓以来、大きな載荷がない素地盤での盛土となり、緩速盛土によっても所定の高さまでの盛土ができない泥炭層の箇所があるなど困難を極めたが、試験施工を繰り返し適正な施工を実現した点が評価された。

#### ②「美瑛川地区かわまちづくり事業～社会資本整備により出現した奇跡の絶景、地域と考える水辺整備～」 受賞機関：北海道美瑛町、北海道開発局旭川開発建設部

美瑛川の魅力ある河川空間をサイクリングコースとして利用し、地域の観光資源である「白金温泉や青い池」と「美瑛町中心市街地」を導線で結ぶことによって観光振興を図ることを目的とした「美瑛川地区かわまちづくり計画」を策定し、平成27年度から令和元年度にかけて美瑛町のまちづくりと連携して整備したもの。

川と街とが一体となった取組で、地域の意見を踏まえ、社会実験を行い、サイクリングロードの整備(舗装、河畔林伐採)やサイクリストが利用しやすいような街側でのレンタサイクル等の取組が進められている点が評価された。



↑現地試走会の様子



↑美瑛川・青い池サイクリングコース

#### ③「日高幌内川河道閉塞緊急対策」 受賞機関：北海道開発局室蘭開発建設部厚真川水系砂防事業所

「平成30年北海道胆振東部地震」により、厚真川水系日高幌内川の右岸側斜面が幅約400m、長さ約800mに渡って崩壊し、河道を約1.1km閉塞する大規模な河道閉塞が発生。河道閉塞土塊からの越流決壊による土砂災害を防止するため、河道閉塞箇所の掘削、越流水を安全に流下させるための水路工、流出土砂を堰き止めるための砂防堰堤等の緊急対策工を実施した。



↑日高幌内川の大規模河道閉塞



↑緊急対策工の完成状況

24時間施工、マシンコントロール型建機等によるICT施工の導入、プレキャスト製品の採用などの工夫により、河道閉塞の湛水容量を融雪出水期前に大幅に低減して工事を概成し、下流地域の安全を確保した点が評価された。

※図表・画像等は国土交通省・北海道開発局の資料より引用



# 令和元年度 河川・海岸協力団体の取り組み

## 河川・海岸協力団体制度

河川協力団体制度は、河川法に基づき、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等の民間団体を支援するもので、平成25年度に開設。河川協力団体として活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象となる。河川管理者に申請を行い、申請を受けた河川管理者は、審査のうえ、河川協力団体として指定する。一方、海岸協力団体制度は、海岸法に基づく同様の制度で、平成26年度に開設された。

## 河川(海岸)協力団体としてのおもな活動

1. 河川(海岸)管理者に協力して行う河川(海岸)工事または河川(海岸)の維持
2. 河川(海岸)の管理に関する情報または資料の収集および提供
3. 河川(海岸)の管理に関する調査研究
4. 河川(海岸)の管理に関する知識の普及および啓発

### 石狩川流域の河川協力団体 R2.3現在

法人等の名称 おもな活動	水系名・河川名	
赤平ラブ・リバー推進協会 河川清掃(植花活動含む)、河川美化啓蒙活動	石狩川・空知川	
幾春別川をよくする市民の会 河川清掃、自然体験学習	石狩川・幾春別川	
石狩川下寛楯 河川清掃(川下り、子ども川塾など)	石狩川・石狩川	
栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会 動植物調査、自然体験学習、夕張川に関するシンポジウム等	石狩川・夕張川	
NPO法人 まち・川づくりサポートセンター 河川清掃、自然体験学習、滝川地区地域防災施設「川の科学館」展示物の説明等	石狩川・石狩川	
NPO法人 山のない北村の輝き 河川調査、自然体験学習、植樹、河川管理者と連携した伐木処理	石狩川・旧美唄川	
株式会社 協和コンサルタント 河川清掃	石狩川・美瑛川	
NPO法人 グラウンドワーク西神楽 河川清掃、自然体験学習ほか	石狩川	美瑛川 辺別川
河川愛護団体 リバーネット21ながめま 自然体験学習、子ども水防団の訓練、植樹活動	石狩川	夕張川 嶮淵川
NPO法人 ふらっと南幌 フットパス事業、河川清掃(除草含む)、植物調査、自然体験学習、幌向湿原の調査・勉強会	石狩川	夕張川 旧夕張川 千歳川 石狩川
NPO法人 カラカネイトンゴを守る会 あいあい自然ネットワーク 当別地区におけるトンゴ類の調査・研究。環境教育、自然観察会、ピオトープ維持保全活動、研究、保全活動、「トンゴの学校」の維持保全活動、カヌー下り	石狩川	石狩川 当別川 茨戸川
NPO法人 三笠森水遊学舎 学習・体験活動による社会教育の推進や子どもの健全育成、適正な河川利用と森林環境の保全など	石狩川	幾春別川
株式会社 日興ジオテック 河川清掃、築堤天端除雪	石狩川	美瑛川 忠別川

### 道内の海岸協力団体 R2.3現在

### 石狩川流域以外の道内の河川協力団体 R2.3現在

法人等の名称 おもな活動	水系名・河川名	
NPO法人 後志利別川清流保護の会 河口・河川清掃、自然体験学習、植樹活動	後志利別川・後志利別川	
NPO法人 沙流川愛クラブ 河川清掃、オコタン川湿原周囲環境整備、植樹活動、日高源流域国有林枝打ち活動	沙流川・沙流川	
釧路・リバー・プロテクション・21の会 河川清掃、ヤマベ稚魚放流	釧路川	新釧路川 釧路川
NPO法人 十勝多自然ネット 小学生対象の魚類捕獲と観察・水質測定、農業高校生による湿地の魚類等調査	十勝川	札内川 十勝川
NPO法人 常呂川自然学校 自然体験学習、小川川を活用した環境教育、魚類・水生生物等調査、河川管理等の知識の普及・啓発	常呂川	常呂川 無加川
NPO法人 天塩川を清流にする会 カシワの森の移植、河川清掃、ハマナス等の移植、野鳥観察	天塩川・天塩川	
ルルモッペ河川愛護の会 サクラマスの稚魚放流、河川清掃、サクラマスの発芽卵の埋設放流、るもい川まつり	留萌川・留萌川	
NPO法人 しりべつリバーネット 子どもの水辺安全講座、河川清掃、自然体験学習	尻別川・尻別川	
ネイチャー研究会 in むかわ 河口干潟の除草、外来種の防除	鶴川・鶴川	
十勝川中流部市民協働会議 札内川富士築堤工事で消失する野草を相川原生花園へ移植	十勝川・十勝川	
NPO法人 帯広NPO28サポートセンター 河川清掃、自然体験学習、ミズベリング十勝会議	十勝川	札内川 帯広川
NPO法人 タンチョウ保護研究グループ タンチョウをはじめとするツル類を保護のため生息環境等の調査研究、保護への啓蒙活動など	釧路川	新釧路川 釧路川 オンベツ川
釧路自然保護協会 イトウ生息状況調査、サケ・マス産卵床分布調査	釧路川	新釧路川 釧路川 オンベツ川

法人等の名称 おもな活動	沿岸名・海岸名
白老町環境町民会議 海岸清掃、環境パネル展、海塾、海岸パトロール	日高胆振沿岸・胆振海岸



## 「第19回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 石狩川」の開催

令和元年9月14日(土)、15日(日)の2日間にわたり、標記の全国大会が滝川市で開催された。今年度は、「NPO 法人まち・川づくりサポートセンター」を中心に、北海道開発局、北海道、滝川市、地元の各団体等からなる実行委員会(当財団も参加)により開催され、約170名が参加した。初日は、お天気キャスター森田正光氏による基調講演、「NPO 法人カラカネイトンボを守る会あいあい自然ネットワーク」「たきかわ子ども水辺協議会」等、地元北海道を含む全国の団体からの熱のこもった活動報告、全国各地からの発表者・参加者で活発な議論が行われた3つの分科会(「川に学ぶとは…」「未来の河川環境」「身近な防災活動」)、参加者全員が一堂に会しての分科会議論報告・とりまとめ、最後に次回開催地の青森県・小川原湖自然楽校の挨拶で終了。2日目は、3つに分かれたエクサカーション(空知川Eポート川下り、石狩川サイクリング、車窓から見る石狩川)。北海道地質百選にも選定されている露頭炭を川の中から体験したり、オジロワシと遭遇するなど、天気にも恵まれて参加者全員が石狩川を満喫していた。



主催者挨拶



分科会発表(札幌旭丘高等学校)



空知川Eポート川下り

※道内の参加河川協力団体

《実行委員会》

- NPO 法人 まち・川づくりサポートセンター
- 石狩川下覧権
- 赤平ラブ・リバー推進協会
- NPO 法人 カラカネイトンボを守る会あいあい自然ネットワーク

《事例発表》

- NPO 法人 帯広 NPO28 サポートセンター
- NPO 法人 カラカネイトンボを守る会あいあい自然ネットワーク
- NPO 法人 常呂川自然学校

## 令和元年度「北海道河川協力団体連絡会議」の開催

令和2年2月13日(木)、標記の連絡会議が道内河川協力団体23団体39名、河川管理者、アドバイザー等55名が出席し、札幌市で開催された。同会議は、河川管理者と河川協力団体がコミュニケーションを深め、連携していい川づくりを進めることで、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的としており、当財団が事務局を務めている。会議では、「管轄事務所意見交換会」での取組報告、新規2団体の活動紹介、土木研究所・坂本専門研究員による「河川協力団体の活動特性とこれからの官民連携の河川管理」と題した講演、十勝川中流部市民協働会議からのSDGsの取組紹介があり、引き続き、「資金・高齢化・後継者問題」をテーマとしたWS形式による意見交換が行われ、河川法99条に係る取組推進、SDGsに係る取組等について活発な議論が行われた。



講演(土木研究所・坂本専門研究員)



取組紹介(十勝川中流部市民協働会議)



意見交換



集合写真



# 石狩川振興財団の活動報告

- 
**01** 流域環境保全活動・河川教育活動
- 
**02** NPO・市民団体等への支援・助成
- 
**03** 令和元年度市町村河川情報委員情報交換会議
- 
**04** 石狩川流域圏会議

## 01

### 流域環境保全活動

石狩川振興財団では、石狩川流域 300 万本植樹運動等、流域の緑化活動を支援・推進しています。また、石狩川クリーンアップ作戦など、河川をきれいにする取組を積極的に支援しています。

石狩川  
クリーンアップ  
作戦



- 事業対象者／石狩川流域市町村住民
- 実施場所／石狩川流域市町村の堤防・河川敷等
- 実施月日／令和元年5月1日から8月7日
- 参加人数等／40 団体、4,241 名

**事業内容** 各市町村の市民団体等と河川敷のゴミ収集を行う



子どもから大人までたくさんの方が参加

詳細は 一般財団法人 石狩川振興財団 ウェブサイト <http://www.ishikari.or.jp/> に掲載しています

# 01

## 河川教育活動

石狩川振興財団では、石狩川の水害や治水の歴史、水利用、流域の風土・水文化、防災、河川環境及び川の安全利用などをテーマに、地域のNPO等と連携して河川教育活動を実践しています。

### 防災フェスティバル



- 事業対象者／砂川市民
- 実施場所／砂川遊水地管理棟、砂川遊水地
- 実施月日／令和元年7月28日
- 参加人数等／370名

**事業内容** 防災についての講演、スーパーボールすくい、キッズボート体験など



わくわく科学実験でドライアイスづくり

### 落ち葉アート



- 事業対象者／砂川小学校1年生
- 実施場所／砂川遊水地管理棟
- 実施月日／令和元年10月24日
- 参加人数等／39名

**事業内容** 落ち葉アートづくり



onちゃんも力作に感心

### 旧美唄川雪中植林&河川体験ツアー



- 事業対象者／岩見沢市民他
- 実施場所／岩見沢市北村地区河川水防センター周辺
- 実施月日／令和2年2月8日
- 参加人数等／150名

**事業内容** バイオブロック(カミネッコン)を組立て雪中に植林。ドローンを使った記念撮影など



苗木 350本を植えました！

※令和元年度は、暖冬の影響で砂川遊水地ワカサギ釣り(2回)、新型コロナウイルスの影響で月形町さけ稚魚放流会が中止となりました。

詳細は 一般財団法人 石狩川振興財団 ウェブサイト <http://www.ishikari.or.jp/> に掲載しています

# 02

## NPO・市民団体等への支援・助成

石狩川振興財団では、NPO や市民団体等が主体となって推進する川を基軸としたまちづくり、環境学習活動及び健康増進活動等に対し支援・助成を行っています。

### ①NPO・市民団体等への支援・助成

NPO など非営利活動団体に対して支援・助成を行っています。令和元年度の支援団体名はつぎのとおりです。

#### 令和元年度 市民団体等支援・助成概要

1	特定非営利活動法人 札幌歩こう会	継 続
2	石狩川下覧権	継 続
3	「緑とエコ」サポーターネット	継 続
4	河川愛護団体 リバーネット21 ながめま	継 続
5	特定非営利活動法人 まち・川づくりサポートセンター	継 続
6	特定非営利活動法人 北海道市民環境ネットワーク	継 続
7	バイオブロック工法普及連絡協議会	継 続
8	特定非営利活動法人 山のない北村の輝き	継 続
9	和光地区子ども会育成連絡会	継 続
10	精進川美化緑化の会	継 続
11	たきかわ子ども水辺協議会	継 続
12	道北の地域振興を考える研究会	継 続
13	特定非営利活動法人 当別エコロジカルコミュニティー	継 続
14	特定非営利活動法人 ダウン・ザ・テッシ	継 続
15	公益社団法人 滝川スカイスports振興協会	継 続
16	特定非営利活動法人 沙流川愛クラブ	継 続
17	徳富川ラブリバー推進協議会	継 続
18	特定非営利活動法人 江別における持続可能な コモンズのためのしくみ (ミズベリング江別事務局)	継 続

19	中川町観光協会	継 続
20	ざわっ子スマイルジャンボリー実行委員会	継 続
21	特定非営利活動法人 天塩川を清流にする会	継 続
22	ネイチャー研究会 in むかわ	継 続
23	砂川子どもの水辺協議会	継 続
24	十勝川中流部市民協働会議	継 続
25	キトウシサイクリング実行委員会	継 続
26	白老町環境町民会議	継 続
27	恵庭河川愛護会	継 続
28	テッシ・オ・ベツ賑わい創出協議会	継 続
29	ミズベリング旭川	継 続
30	特定非営利活動法人 ふらっと南幌	継 続
31	オアシスパークからゆめまちづくり協議会	継 続
32	特定非営利活動法人 エゾシカネット	継 続
33	一般社団法人 札幌青年会議所	継 続
34	エコ・ネットワーク	新 規
35	大雪山カウイミントラジオパーク構想推進協議会	新 規
36	砂川観光協会	新 規



滝川市で行われるサマースカイフェスタ（滝川スカイスports振興協会・画像提供：滝川市）



天塩川カヌーツーリング大会（特定非営利活動法人 ダウン・ザ・テッシ）



川をはかる・川を見る・川を知る（特定非営利活動法人 山のない北村の輝き）

### ②公益目的事業による支援

石狩川流域の振興に資する各種大会や連携講座などのイベントに協賛し、その活動を支援しています。

#### 令和元年度 公益目的事業支援概要

1	公益社団法人北海道スカイスports協会	継 続
2	第19回川に学ぶ体験活動全国大会 in 石狩川実行委員会	新 規
3	水防災タイムライン・カンファレンス全国大会 2019 in 北海道実行委員会	新 規

他

## 03

## 市町村河川情報委員情報交換会議

石狩川振興財団は、石狩川流域全46市町村の河川担当部長・課長から構成される市町村河川情報委員を運営しています。令和元年10月18日（金）に、石狩川流域市町村の河川情報委員と北海道開発局、北海道も参加して、「市町村河川情報委員情報交換会議」を札幌市で開催しました。

令和元年の情報交換会議は、昨年に引き続き、水防災対応と地域振興をテーマに設定しました。水防災対応は、東日本大震災を事例とした災害時の対応についての講演、北海道における平成30年度災害について、住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト、北海道胆振東部地震への対応及び気候変動を踏まえた新たな検討について、説明をいただきました。地域振興は、かわたび北海道について説明をいただいた後、砂川市から砂川地区かわまちづくり計画、そして今回はNPO法人「まち・川づくりサポートセンター」から活動を紹介いただきました。本情報交換会議は、国、道、市町村が一堂に会して情報を共有し、議論する場として有用であると考えています。

令和元年度市町村河川情報委員  
情報交換会議プログラム

◎開催日時 令和元年10月18日（金）14:00

◎開催場所 ホテル札幌ガーデンパレス

## 1 開会挨拶



(一財)石狩川振興財団会長  
黒氏 博實



## 2 議 題

## 1) 水防災対応

○災害時の対応について—東日本大震災を中心として—(講演) 北海道大学 教授 今日出人 氏

○北海道における平成30年度災害について 北海道建設部土木局河川砂防課災害復旧・海岸グループ 主幹 樽林 基弘 氏

○住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト  
北海道開発局建設部河川管理課 水災害予報専門官 入交 泰文 氏

○北海道胆振東部地震への対応及び気候変動を踏まえた新たな検討について  
北海道開発局建設部河川計画課 河川計画管理官 武田 淳史 氏

## 2) 地域振興

○かわたび北海道について 北海道開発局建設部河川計画課 課長補佐 米元 光明 氏  
(代理 調査係長 天羽 淳氏)

○砂川地区かわまちづくり計画 砂川市建設部 技監 小林 哲也 氏

○ミズベリングから「かわたび北海道」へ NPO法人「まち・川づくりサポートセンター」 事務局長 森井 智江 氏

## 3 意見交換及び質疑応答

## 4 情報交換会

## 石狩川流域圏会議

石狩川流域圏会議は、石狩川流域全 46 市町村の首長から構成されており、平成 23 年に発足しました。石狩川振興財団は、石狩川流域圏会議の活動と連携しながら、石狩川流域市町村の活性化に努めています。

# 04

### 1) 石狩川流域圏会議「本会議」

石狩川流域全 46 市町村の首長が一堂に集う石狩川流域圏会議「本会議」が、令和 2 年 2 月 12 日に札幌市において開催されました。議長である原田恵庭市長から、流域のつながりをさらに深めて流域圏として発展を期す旨の挨拶と来年度の事業計画として、「サイクルツーリズムの推進」「流域連携による相互防災支援体制構築に向けた情報共有」「豪雨災害対策職員研修の開催」等の提案があり、全会一致で議決されました。続いて、国土交通本省の門大臣政務官、北海道の小林建設部長から、昨年の台風 19 号を含む近年の災害等を踏まえた来賓挨拶、その後、(一社)シーニックバイウエイ支援センターの原代表理事から、自転車と川を使った観光振興についての講演、引き続き、国土交通本省水管理国土保全局の藤巻治水課長から、治水事業に関する最近の話題の説明や石狩川流域圏会議への激励が



本会議の様子



議長の原田恵庭市長



北海道大学の今教授

ありました。最後に、北海道大学の今教授から、自治体の庁内 LAN 環境 (LGWAN) に関連する情報提供があり、「災害担当者が災害情報を日常的に閲覧可能な (LGWAN とは別回線の) ネット環境の整備が重要である」、当流域圏会議主催の豪雨災害対策職員研修について「流域自治体の皆さんにとって大事な取組であり、是非積極的な参加を」との呼びかけがありました。

### 2) 豪雨災害対策職員研修

石狩川流域圏会議では、水害経験のある市町村職員が減少していることを踏まえ、石狩川流域市町村の豪雨災害担当者を対象に、平成 25 年度から豪雨災害対策職員研修を実施しています。令和元年度の研修は、7 月 8 日、9 日の 2 日間、恵庭市において開催され、26 市町村から職員 49 人、国・道・団体職員 25 人が参加しました。研修 1 日目は、防災・河川情報・防災気象情報等に関する基礎知識を学ぶとともに、豪雨災害時の対応について北大の今教授から、平成 30 年 7 月豪雨に伴う被災状況に



研修の様子

ついて旭川市の山田主幹から講話がありました。2 日目は、気象情報や河川情報を収集・活用するため、実際にパソコンを使いながら演習し、その後、危機管理演習が実施されました。石狩川振興財団は、2 日目の危機管理演習を担当しました。危機管理演習では、大規模豪雨による被害想定と状況進展シナリオに基づき、参加者は、段階毎に適切な対応を検討し、災害対応時の問題点や留意点を確認しました。

04

石狩川流域圏会議

石狩川流域圏会議は、石狩川流域全46市町村の首長から構成されており、平成23年に発足しました。石狩川振興財団は、石狩川流域圏会議の活動と連携しながら、石狩川流域市町村の活性化に努めています。

3 石狩川サイクリングコースマップづくり

石狩川流域圏会議は、設立以来、自転車で石狩川流域を結びつけ、流域全体の活性化を図ることを目指して、サイクリングコースマップづくりに取り組んでいます。これまでに、石狩南部・空知南部編（平成26年度）、その英語版（令和元年度）、旭川・美瑛編（平成28年度）、北・中空知編（平成30年度）のサイクリングマップが完成し、道の駅、空港、駅などに配置しています。本年度も、石狩川流域圏全体を結ぶルートのコースマップづくりを進めるなど、引き続きサイクリング環境の充実に努めていきます。



4 調査船「弁天丸」体験乗船学習会

石狩川流域圏会議の取組の一つとして、石狩川をフィールドに流域圏の子供達への環境・防災学習を進めていこうと、北海道開発局札幌開発建設部が所有する調査船「弁天丸」を活用した環境・防災学習会が令和元年7月31日に開催されました。

恵庭市、旭川市、滝川市等6市1町から15人の小学生が江別河川防災ステーションに集まり、調査船「弁天丸」に乗っての石狩川・千歳川の観察や川の模型等を使った学習会、防災カードやハザードマップを使ったグループ討議などが行われ、石狩川振興財団もそのお手伝いをしました。弁天丸に乗って感動したというアンケート結果も多く、子供達にとって素晴らしい体験になったようです。



弁天丸乗船の様子



川の模型で学ぶ子供達

石狩川振興財団は「かわたび北海道」を推進しています。



かわたび  
ほっかいどう



▲かわたび  
ほっかいどうHP

KAWATABI HOKKAIDO

「水辺っておもしろい！」を満喫できる、初めての情報サイト！

手軽なアクティビティから、施設・イベント情報、さらにグルメな話題まで。北海道の川や水辺境界の楽しみをまるごと伝えてくれる、ワクワクがたっぷりの情報サイトがオープンしました！



かわたびほっかいどう

Search!

<https://kawatabi-hokkaido.com/>

水辺の観光情報サイト  
「かわたび北海道」HP



川に関する情報の発信、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用の促進、地域とのつながりの促進などを進める北海道発のプロジェクト

川のアクティビティ(空知川上流のラフティング)



水辺のイベント(豊平川の川見)



冬でも水辺利用(砂川遊水地ワカサギ釣り)



豊平峡ダム見学ツアー、ダムで貯蔵したワイン



河川沿いのサイクリングと青い池(美瑛川かわまちづくり)



一般財団法人 石狩川振興財団

●発行 令和2年8月

●住所 〒001-0011  
北海道札幌市北区北11条西2丁目2番17号  
セントラル札幌北ビル2階  
TEL:011-299-7755 FAX:011-299-7550

●ホームページアドレス <http://www.ishikari.or.jp/>

表紙写真:特集にあわせて、「千歳川の川と人」をイメージしています。  
上段左:昭和11年屈曲部ショートカット工事と合わせて行われた舞鶴橋工事  
上段右:昭和35年頃の千歳川で遊ぶ子供達(画像提供:千歳市)  
中段:昭和56年洪水時の恵庭市での避難状況  
下段左:千歳川遊水地の地盤改良工事  
下段右:千歳川をカヌーで自然体験する子供達  
※上段右の写真以外は、北海道開発局、石狩川振興財団が所蔵するものを使用

